

俗に妻帯を稱して「家を持つ」といひ。人に結婚すべきを慫慂して「家を持って」といふ。此意味に於て世に家なき者殆國民の過半ならむ。大空の青天井、草の苗に山の壁、破椀捧げて「ホイイハッチ」の浮浪の徒亦家を有せず、此意味に於て家なきもの天下幾千萬なるを知らず。而かも茲に家なき國民と題せるものに至つては自ら異れり。

彼等の家は船、船は家、彼等は呱呱の聲を其船艙に揚げてより三寸息断ゆるに至るまで嘗て陸上を履まず、彼等の安宅は實に一葉の扁舟、彼等は此低き狭き船間に家庭を作り團樂の樂を爲す。彼等の家は只僅に其膝を容るゝに足るのみ。彼等は陸上生活國民の如き何等の虛榮心なし。彼の室内狭しと駢列せる珍器佳什は彼等の眼には邪魔物たるのみ、夫の綺羅錦繡は畢竟無用の長物たるのみ。彼等は奢侈を知らず。贅澤を知らず。天の爲せる麗質を保持して飾らず、施さず、譎詐を知らず。而かも能く國民性に富む。彼等は能く納税の義務を知る。彼等は未だ督促令狀に接したることなし、彼等は喜んで兵役に服す。且頭普通教育の忽にすべからざるを悟り數千圓を投じて寄宿舎を建設し幼兒を其家船より下し之に收容して學校に通はしむ。其監督者は船中の老人株、船に在りても用なき人。

彼等は物資を購はんが爲め説教を聞かんが爲、死人を埋葬せんが爲に上陸するのみ。一生は船、彼等の職業は漁業、彼等は矛を以て魚をつく。而かも百發百中、彼等は海底の岩石、魚類の潛伏場、及其の

游泳池を知る彼等が若其欲する所を生擒せんとする時網にて作りたる囊を携へ海底深く潛り巧に其魚を囊中に追ひ入れて淨み上がるなり、囊の周りは僅二尺位に過ぎずといふ。以て如何に巧なるかを知らるに足らずや。

#### 福田の洞穴

港外福田村に在り。此邊一體岩岬峙ちて今にも落ちぬべき處、潮岩を穿ちて深き殆測るべからず、怒濤激して常に聲響たり。太田南畝の書簡中、左の文あり、又以て其一般を窺ふに足りぬべし。

上陸六日には舟行飽之浦と申候所より山を越へ大村領の内福田浦の巖頭を見に參申候山中梅花開落巖石に岩ひば等有之絶景に候濱邊の景もよろしく一農家にて行厨飲酒亦々舟を命じ海岸を回り候向ふの方には硫黄島古本や家物語に有之位實浦浦流のよし薩摩にはあらす五島など見え申候波濤如山千帆如畫洞中へ屋根ある船と供船二艘こぎ入れ一町計入申候左に曲りし所より眞暗に成候間早々出申候洞の大きき是にて御察し可被成候入口高さ五六間はば三四間にて御座候島など違ひ歩行にては入がたく船にて入候事に御座候詩作別紙に記申候眞に絶境にて候云々

### 第四章 東彼杵郡

#### 第一節 概観



東は北高來郡に接し、南西は大村灣を隔て、西彼杆半島と相接し、西北は北松浦郡に隣り、東北は佐賀縣の藤津、杵島、西松浦の三郡と交る。地勢佐賀縣下の國見嶽、虚空嶽の餘脈走りて烏帽子岳、古今山、神本山となる。西北、東北の佐賀縣に接する地方は高山峻嶮宛も屏風の如く聳立するを以て能く寒風を防ぎ氣候温暖なり。土質肥沃ならざれども能く耕耘し能く施肥するを以て農産物尠からず。河流は彼杵川、波佐見川、折尾瀬川等あり、何れも西流して大村灣に注ぐ。

交通

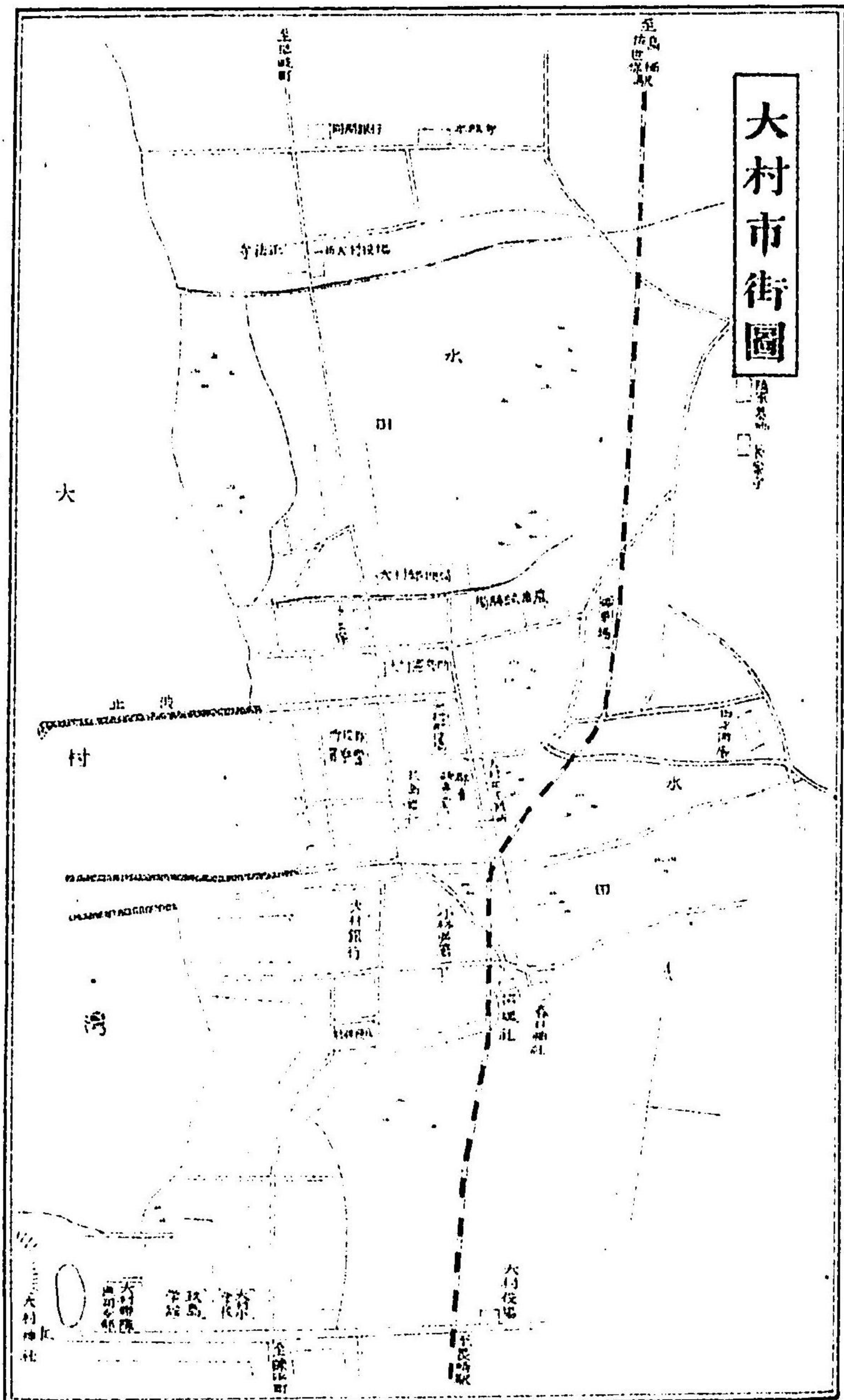
鐵道は元九鐵線の有田驛より下り勾配、三河内、早岐驛に至り分岐し一は佐世保市に至り一は南風崎、川棚、彼杵、千綿、松原等の各驛を経て大村に入り諫早驛(北高來郡)に至る

道路は北高來郡諫早町より出でて大村、松原を経て彼杵に至り分岐し一は東北を廻り佐賀縣野を経て武雄町に出で、一は早岐を経て有田に出で武雄町に出で、一は早岐より岐れて佐世保市に至る

海路

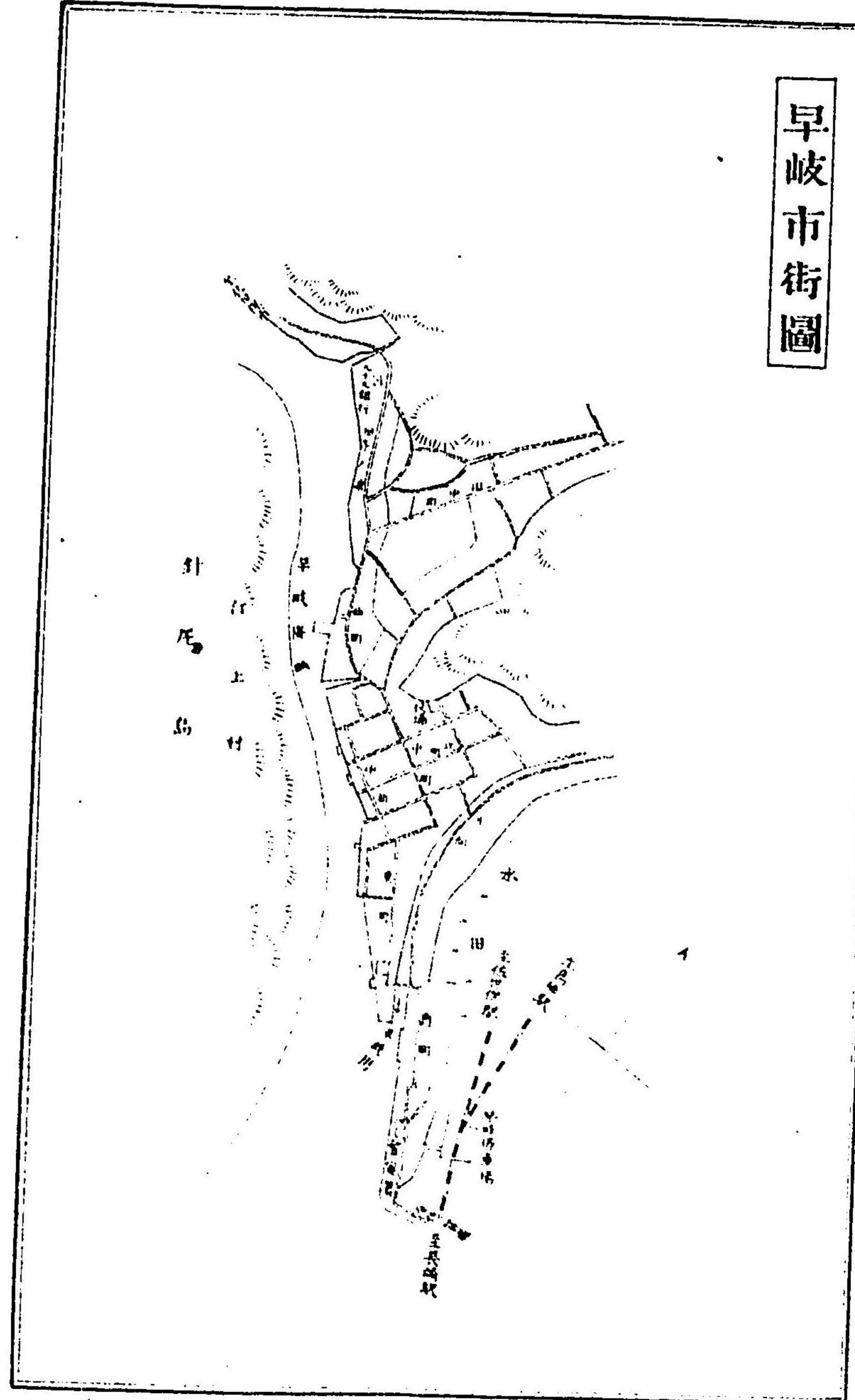
鐵道開通前にありては早岐より郡内沿岸を廻航したる汽船ありしかど、今は大村町より直ちに大草驛への連絡汽船及渡海船あり、賃は僅に六錢、

戸數一萬五千三百七十五、人口七萬九千九百三十五、郡役所は郡の南部大村町に在り郡を分ちて大村町、三浦、鈴田、大村、西大村、荻瀬、竹松、福重、松原、千綿、彼杵、川棚、下波佐見、上波佐見、





早岐市街圖





宮、廣田、折尾瀬、早岐、江上、崎針尾、日宇、佐世の一町二十一箇村とす。

#### 針尾の瀬戸

崎針尾島は本郡最大の島にして其西彼杵郡伊の浦、横瀬と界する處に伊之浦瀬戸あり。海口頗狭きを以て海水を吞吐すること容易ならず。干潮の際には内外常に數十尺の差あるを以て俄に急湍を作り、殆一大瀑布の如く汽船の航行難し。故に多くは其潮時を見計ひて此瀬戸を通過するを常とす。波佐見金鎖、本縣唯一の金鎖にして、那答院の獨力經營に係る。

#### 第二節 農 産

米、麥、大豆、茶、甘藷を主とす。

陶磁器業は本縣内、本郡の特産、三河内焼の弊價は其和樂の點に於て、其質の脆弱ならざる點に於て其形の雅致に富める點に於て噴々たり。詳細は工業の部に在り。

#### 第三節 水 産

先づ指々眞珠に風すべし。眞珠は大村藩主が舊幕時より銳意獎勵して其産殖を圖りし首也。維新後一時濫獲して其跡を絶つに至りしが、漸く近年之が保護養殖を圖りたれば將來有望なり。海鼠、鰻亦名物の一。



#### 第四節 名勝

三二六

##### 大村灣 (翠之浦)

汽車にて長崎に來れば、一望際涯なき肥筑の野に飽き、變化なき山岳と不愉快なる隧道の多きに倦みたる頃倏忽として大村灣は其右手に現はるべし。汽車の進みて彼村驛に達する頃には時に水雷艇の遊弋するを認むべく、碧波浩蕩たる間大小の島嶼浮び、西彼岸の諸山蜿蜒として相連れるを望むべく、綸を垂れたるもの、網を投ぐるもの、櫓を推すもの、帆腹飽滿一瞬千里の勢もて航するものに漸く長途の疲を癒すべし。潮水常に程に、怒濤懸崖を嚼むが如きの大觀なしと雖、漫々たる海上の風景に至つては又多く瀬戸内海に譲らざるべし。殊に大村驛附近の海上には數多の島嶼前に横りて四時の風光清絶を極む。鐵路坦々、其漸く諫早驛に達せんとする頃、又暫時陸道の暗に前の風光を憶はしむべし。

##### 大村町

舊玖島城址は街坊外に在り。慶長四年大村丹後守喜前之築く所、大村灣に突出し樹林藪として晝猶暗し。城内大村神社あり。地高燥なるを以て灣内の風光は一瞬の中に收め得べし。馬場には數千株の櫻樹を栽ゆ。若夫艶陽三月に至つては鐵道沿線各地より來り賞するもの如多く、列車内足を容るること能はざる混雜を來すことあり。

町は甚廣からざれども郡内第一の街坊なれば其賑も想像せらるべく、放虎原頭(ホーコンバル)には日露戰役に偉功を奏したりし歩兵第四十六聯隊あり。昔、放虎原頭北風起と蜀山人のいひ棄てて別れたりと云へるは是。縣立中學玖島學館あり。

##### 松原温泉

松原驛を距る約六町の海岸に在り。質は含鐵炭酸泉、浴室清潔旅館あり、浴後老松の疎々たる沙汀を逍遙すれば清新の海氣徐に吹いて胸襟を潤うすべく、歸りて膳に向へば、鮮魚脆美、杯を重ねて陶然と酔ひ、脰を曲げて一睡を食れば松風濤聲相和し、琅然として枕頭に到る。蓋大村灣頭の形勝の一。

##### 山田瀑布、雄瀑、雌瀑、龍頭泉

山田瀑布は大村より一里半許、郡山の麓に大池あり激して潭に落つ。雄瀑雌瀑は松原驛より約一里、列車中より猶認むるを得べし。龍頭泉は松原驛より約二里半、千綿村に在り。山を躋り谷を越え坂を攀づれば歩々にして俗氣を絶ちて心神自ら爽快。湍湍を爲して四十八湍、湍毎に名あり。松林飯山の名づくる所。枯松倒に掛つて絶壁に倚り飛瀾瀑流喧嘩を争ふ崖に砾き石を轉じ萬響雷なるは是をやいふらむ、舊時藩主大村侯の代々遊覽の地たり。今人遊覽の地を都會に求め、他の閑雅幽邃の地に放浪するもの少なきが如し、従つて此地未だ殆く世人に賞せられざるは惜むべし。

三二七



### 第五章 北高來郡

#### 第一節 概観

北は佐賀縣藤津郡に接し、西は本縣東彼杵郡に連り、西南は同く西彼杵郡に界し東南は森山村を以て備かに南高來郡と境を接し、東は全く海に瀕せり。郡の西、北部は山嶽連亘、丘陵起伏して有明海に臨む。山嶽の重なるものは多良岳にして以て佐賀縣と界を分つ。多良岳は高さ三千二百尺の高山にして山上多良岳神社あり、又金泉寺の古刹あり。舊曆四月八日、九月十五日の祭日には、遠近の參詣人夥しく、登山の道筋には、露店見世物等を出し、非常の賑を呈すとす。

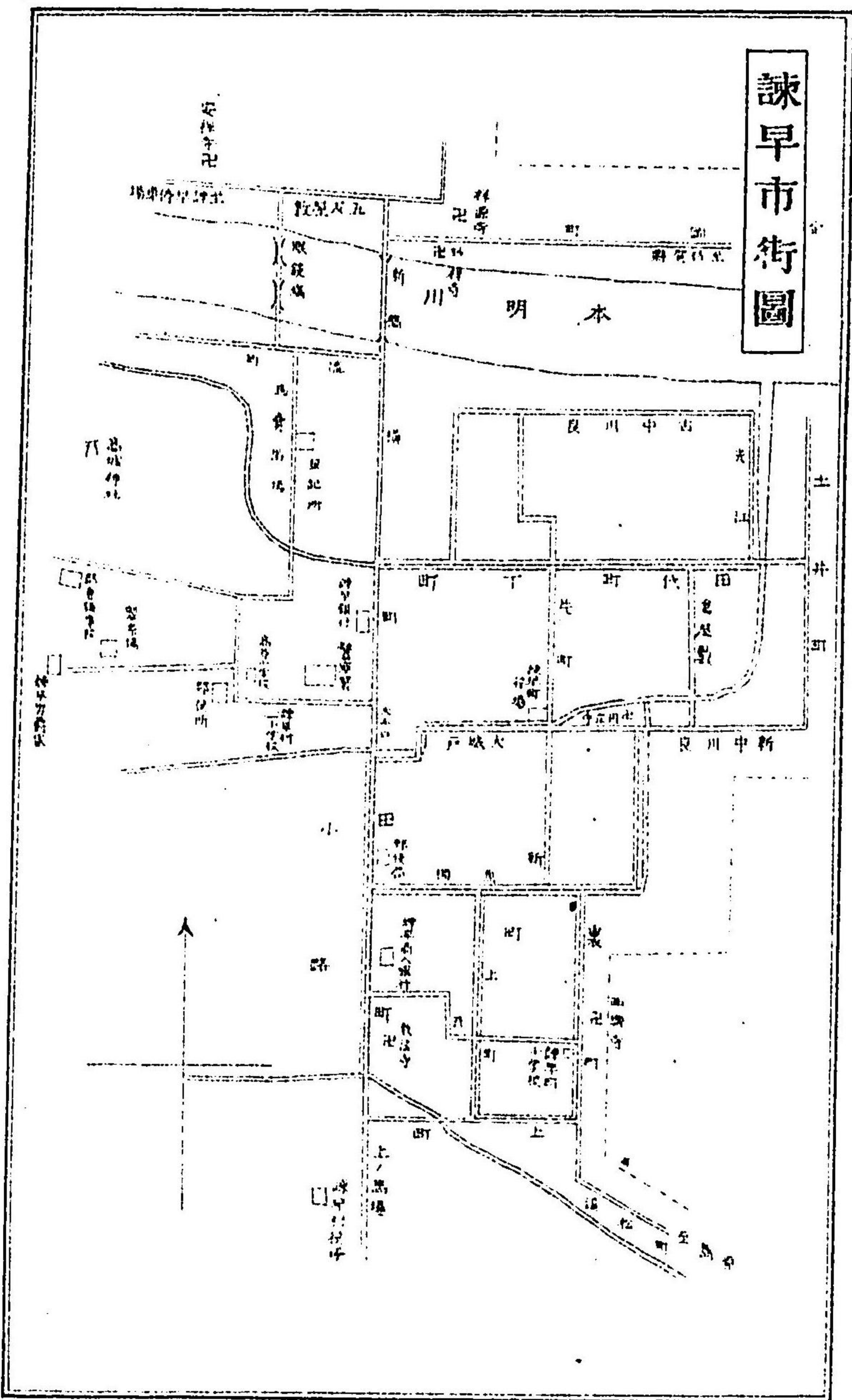
山中には、松杉檜等の良材多く鬱茂し、又黒文字、釋南下、山椒魚は此山の名物なり東南海岸有喜、田結、戸石等の各村は天草洋に臨み、風光絶佳、牛洗島、前島、牧島の一潮溝を隔て、浮べる様畫の如し。此地一帯氣候甚温暖にして、海岸には到る處榕樹の繁茂せるを見る。

河川の大なるものは諫早川にして流域三里、其他湯江川、長田川等何れも郡内の大川なり。

#### 交通

鐵道は西北の一部を貫通せり。停車場一、即諫早驛。

道路は諫早町を出で、東北の海岸を縫ひつゝ、長田、深海、小江、湯江、小長井を経て佐賀縣藤津郡





に至るもの、一は小野森山等の諸村を経て南高来郡に入るもの、一は真津山、古賀を経て長崎に入るものとの三あり。何れも車馬の便ありて交通繁し。汽船は茂木、小浜間航路汽船の宇喜、唐比の二港に寄港するのみ。戸数一萬二千六百二十六、人口七萬八百六十七。

郡役所は諫早村に在り。一郡を分ちて諫早町、諫早、北諫早、小栗、小野、森山、有喜、江の浦、田結、戸石、古賀、真津山、本野、長田、深海、小江、湯江、小長井等の一町十七村とす。

### 第二節 農 産

本郡の農産物は米を第一とす。品質優良にして諫早米とて縣下に名あり。其他馬鈴薯、甘藷、蠶等は其主なるものなり。苧製造製絲機業甚盛なり。

### 第三節 水 産

宇喜、唐比等は千々岩灘に面するを以て鰯其の他鱈、鯖等の漁獲多く。有明海に面する地方牡蠣、蛸、ハダラ、蟹、鮑、の漁獲多く又「摺海老」は産額多からざるも名産として珍重せらる。近來蠶養殖業盛に行はれ有明海重要産物の一となれり。

泥 猴 魚



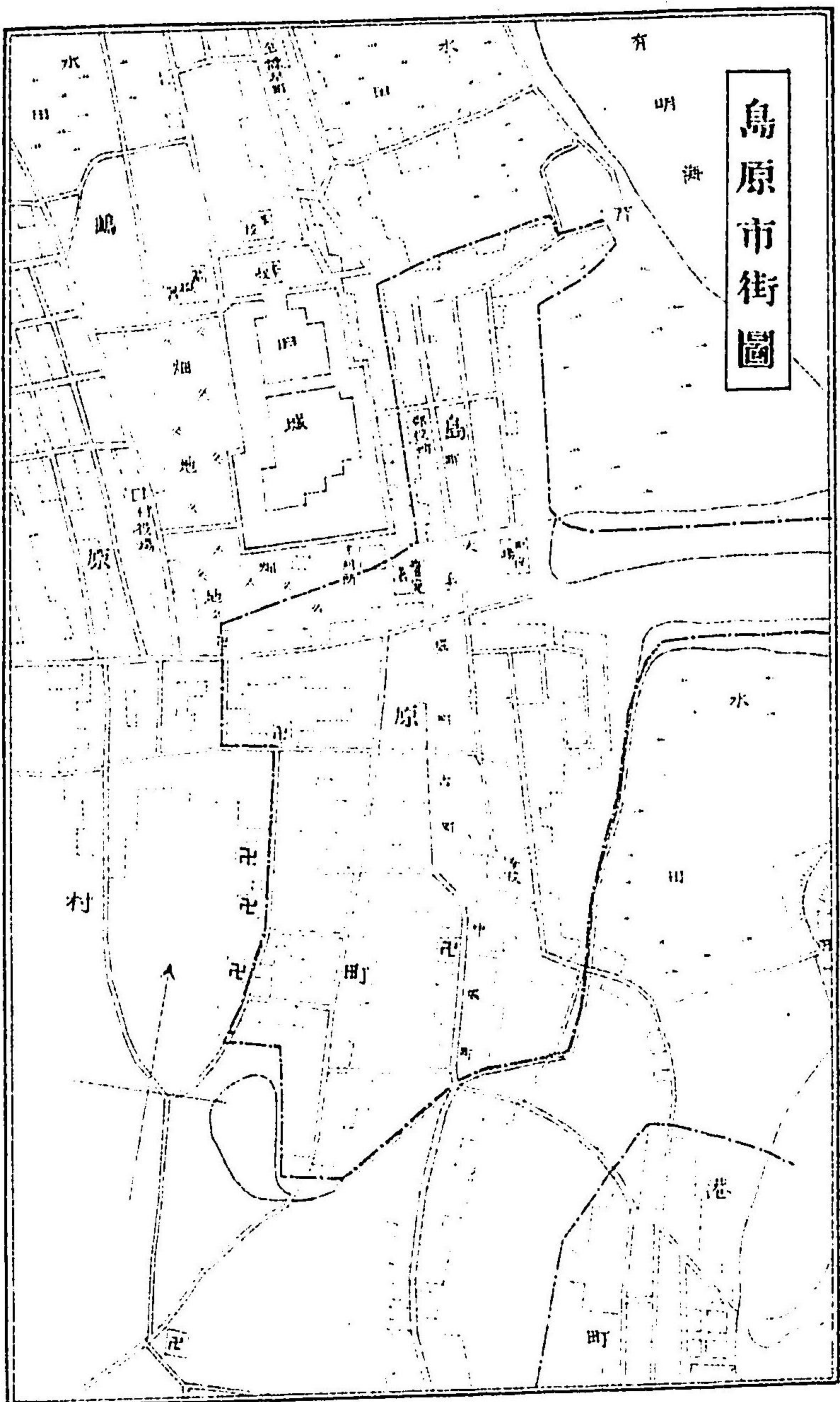
泥海に産する一種不可思議の動物、其體軀は鰻の如く、其眼は甚大に且隆起突出して「泥猴魚の眼玉」の語はあらゆる比喩に用ゐられ、泥上を匍匐し、能く飛び能く隠れ能く游泳するの技に至つては他に比するものあらざるべし。泥猴魚を追ふの愚は鵝を追ふの愚に優る。彼性甚怯懦影を見足音を聞けば即隠れ、忽出で泥にまみれたる眼をしばたく、其振舞や甚奇。蓋近づくべからず。

之を捕ふるの法亦奇。長さ釣竿の先に長さ糸を結び付け、糸の先に釣針の六箇或は八箇を束ねたる一種の釣針あり。漁者先づ四五間前に懸はれたる泥猴魚に向つて釣針を投ず。投せられたる釣針は今捕へんとする泥猴魚の前方遙かにあり。漁者力を極めて竹竿を揚曳すれば、釣針は將に逃げんとする泥猴魚を搔擾ふ。斯の如くして百發百中殆ど「た針」なきものは蓋習熟の然らしむるものか。

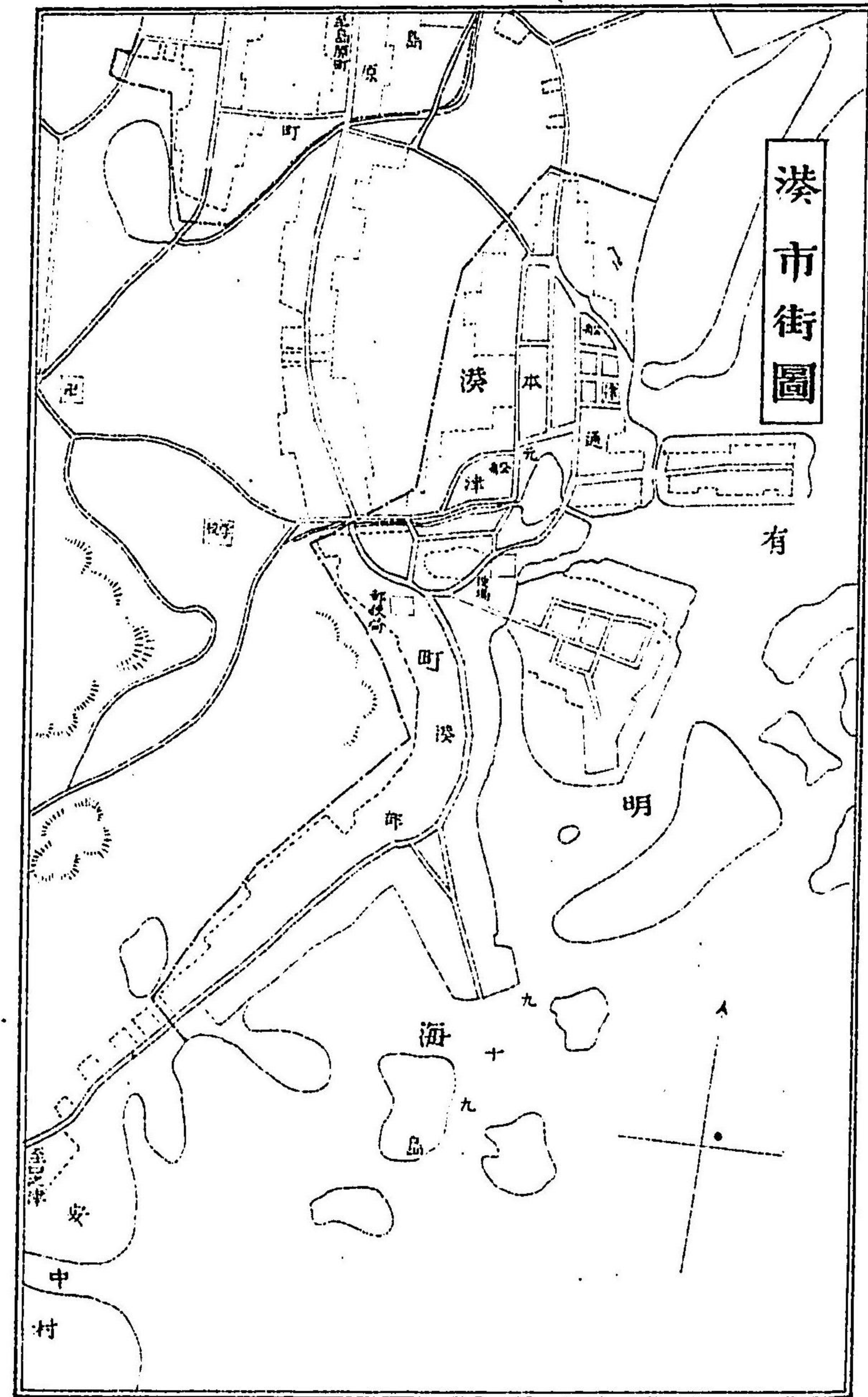
諫早地方に旅行したる時大釜中、泥猴魚の料理は必ず其食卓に陳ねらるるを例とす。一たび之を味へば其脂肪は鰻の如く濃厚ならず。其肉は柔に、一種の風味ありて、舌鼓打鳴らして味ふべし。是泥猴魚の油蒸にして到底鰻などの及ぶ所にあらず。唯其醜貌にして能く此味あるに至つては、所謂松茸の其蓋襖の臍脂の裝なきも、馥郁たる香氣を放つに似たり。

#### 第四節 名勝

眼鏡橋









諫早驛を去る十町本明川に架す橋下兩偃月形を爲し、結構美にして其の名世に顯はる。

#### 慶 巖 寺

全山皆奇巖怪石より成る。而して巖を彫りて數百の佛像を刻せる所、夫の五百羅漢の如し山上慶巖寺あり、建築古雅にして風致に富む。

#### 縣立農學校

諫早村に在り。本年四月の開校にして日下八十名の生徒を收容せり。(教育の部参照)

#### 諫早監獄

諫早村に在り。鉦費を投じて建築したるもの、結構宏壯にして全國監獄の模範建築物と稱せらる。

#### 天 祐 寺

舊練早家の菩提寺にして、曹洞宗の名刹なり、地域廣く、境内頗る幽趣あり。

#### 安 勝 寺

真宗にして、本堂は近年新に建築したるものにして、結構壯大、縣下稀に見る巨刹たり。

### 第六章 南高來郡

#### 第一節 概 觀



所謂島原半島。温泉嶽、島一面に足踏ん伸べて仁王立ち、虚空睨んで沸つと吹く狹霧凝つて天草群島と化り、餘沫湛へて有明海、千々岩の二洋となり、地盤迂りて纒に北高來郡と壤を接するに至れり。煙雲濛々として天に翳き、天浮橋ひた傳ひに夫の天界に至るべく、誤ては八大地獄に眞倒に陥りぬべし。彼常には温秀牧童遊ひ禽鳥戯れ、足を洗ふの海には、漁歌棹聲喧嘩絶えず、四縣幾百千萬の漁民以て生息し、一たび怒つて氣を吐けば萬雷一時に轟き、山崩れ地裂け海溢れて人の子を滅せんとす。崇高優婉の景觀は半島國民の性情を養ふ。

地形既に斯の如し。温泉嶽の裾野は半島國民の住居にして山陵走りて海に入り海水常に其の足を洗ふを見るのみ。大河の其間を灌流するものなく、平坦なる地積亦多からず。

### 交通

一葦海水を隔てたる肥後國長洲町へ海底電信線あり。

道路は長崎市より千々岩灘に沿ひて矢上、有喜、千々岩を経て小濱に至るものと、一は北高來郡諫早村より有明海に沿ひて山田、三室、伊方、神代等を経て島原町に達するものとの二條あるのみ。

茲に特に記すべきは諫早島原間に鐵道を敷設せんとする島諫鐵道にして、今株式募集中なり。若夫れ此鐵道にして開通せんか、熊本縣三角、百貫、長洲と海上の連絡を保つべく、熊本、長崎縣各驛との距離の短縮、時間、貨金の低減は鳥栖迂回線に比して甚しきものあるに至らむ。且半島國の實業の是

より益大なるべきや疑を容れざるなり。

### 汽船

島原口之津、茂木各港間、茂木小濱間、島原長洲(熊本縣)間、島原三角(熊本縣)大川(福岡縣)若津(同)等の各線あり。

戸數二萬八千七百九十四、人口十七萬二千三百九、一郡を分て、島原町、湊町、島原、杉谷、三會、大東、湯江、多比良、土黒、神代、西郷、伊福古部組合、守山、山田、愛野、千々石、小濱、北串山、南串山、加津佐、口之津、南有馬、北有馬、西有家、東有家、堂崎、布津、深江、安中の二町二十七ヶ村とす。

### 第二節 農産

米、麥、大豆、甘藷なるべし。蠶業は近年著しく發達し將來頗有望なり。牧畜は島原馬の名、近國に轟き、温泉山麓の牧場に飼育せり。綿羊は未だ充分の發達を見ること能はざれども其羊毛は既に年々製絨所に輸送しつゝあり、養鶏も亦盛んに行はれ長崎中に輸出せられ縣下北高來郡と共に上海鶏卵の輸入を防遏せんことに努む。「ツルシボシ」古露柿は此地特有にして甲府、廣島産に比して決して遜色なく顆粒甚大、甘味に富み品質頗優良なり、需用抄からずと雖産額未だ多からざるが故僅に長崎市に供給するのみ、是亦將來有望なる産業の一なるべし。



### 第三節 水産

三三四

鱒は其最たるものなり。大日本水産株式会社は既に郡内小濱村に地を相して一大分工場を建つべしと傳へらる。

### 第四節 名勝

#### 島原港

寛政の四年、一夜雷電轟き山岳震ふ。忽ちにして眉山裂けて海を埋め、海嘯起つて對岸熊本縣の沿岸を襲ふ。島原港は此地變の構成したるもの、數十の島嶼、海門に星羅棋布し、白沙青松曲洲環浦の光景は宛然日本三景の一たる松島の觀あり。埠頭に燈臺あり、八角煉瓦石造にして白色の火光を帯び、光海上に達すといふ。港内水深く船舶の碇泊に便なり。定期船は長崎、茂木、小濱及口之津港より本港間各村熊本縣三角、長洲等と連絡する外貨物運搬に關しては横濱、大阪、神戸、兵庫、多度津、三津濱、博多、唐津、呼子、平戸、長崎、大川等に連絡汽船及帆船の便あり。陸上には島諫鐵道日ならずして敷設開通せらるべし。戸數一千二百十戸、人口六千四百九十人、街衢清潔、清泉湧出して市街を貫流し各戸悉く之を引く。

#### 靈丘公園

島原村權現山一帶老松蒼鬱として全園を覆ひ櫻桃楊柳其間を點綴し風光甚だ明媚、園の東南端は即懸崖絶壁海濱に屹立し、遙かに肥筑の山影を望み、海山の眺望轉た遊客をして去るに忍びざらしむ。境内一萬二千餘坪、靈丘神社あり、東照宮と舊島原藩主祖先の神靈を合祀す、東方の一勝地には招魂社あり、殉難戦死者の忠魂を祀れり。園内茶店あり、展望に可なり。料理は和洋何れも直に調ふべし杯を啣んで船舶の去來を眺むべし。港を距ること僅に四町。海濱は潮水常に清澄にして海水浴に適するを以て福岡、熊本地方より來集するもの多し。其他沙丁魚、網漁、舟遊、等自由に辨じ得べし。旅館、料理店等島原町に點在す。深刺たる鮮魚を味ひて此の風光に浴する又快ならずや。諸般の費用亦頗廉。

#### 口之津港

郡の南端瀬詰崎の奥に在り。海水深く大小幾多の内外船舶は常に港内に輻湊し、其出入去來本郡第一と稱せらる。周圍は山岳丘陵を以て圍繞せられ渺茫たる蒼海に天草群島の浮べるを見るべし。明治十一年頃より石炭集散の要地となり、二十二年特別輸出港に指定せられ、幾何もなく特別輸出入港となり、爾來石炭集散を以て頗る賑を極む。市街は概海岸に沿ひ戸數二千二百二十四戸、人口一萬八百八十四人あり、旅館の設備稍整ひ内外旅客の利便尠からず。港を距ること十餘町の絶岬に燈臺あり、能く海上八里を照すといふ。長崎、茂木、天草、小濱、島原、長洲、三角等への連絡汽船あり。又上海、香

三三五



港、牛莊、新嘉坡等の各港に對し、石炭其他の貨物運送の爲め汽船の來往絶ゆる時なく頗る繁盛を極む。

三三六

### 原 域 趾

郡内南有馬村大江名より浦田名一帯の海岸、奇峰怪巖の聳ゆるにあらず、急湍激流の遮るにあらず。而かも前には一帯の水を隔てて天草群島横ばり、後には約五千尺の温泉岳の裾引きはえて泥田相連る。寛永十四年天草の四郎、席旗數十流朝風に翻して幕軍を惱ましたる所、當時島原の城主松平氏政を失して民叛意あるを窺知したる四郎が「茲處屈強の場所」と定めたるも宜なりけり。追討使板倉重昌が戦死したるも茲處なり。翌十五年松平信綱之を陥れ、賊を屠り城を毀つ。當時九州諸侯の兵と幕軍とを惱したるもの、今や悉く鋤かれて田畑と化せり。

此城は、有馬貴純が高來郡地方を領せしより世々其居城にして高來郡彼杵郡、藤津郡の二十四萬石を併領せし所、其後五世の孫修理大夫晴信の代に及びて龍造寺、隆信の爲に地を削られ纔に島原半島の地を保有せり。慶長十七年晴信耶蘇教を奉ずるに及び、徳川幕府怒つて甲斐國に流す。後元和元年大和五條城主松平重政島原に森岳城を築くに及びて原城は遂に廢墟となれり。

### 温 泉

「うんせん」と訓む。島原半島の中央に聳ゆる温泉岳西方の中腹に在り。

「うんせん」は有数の避暑地にして歐米人に其名を知らる。夏季に至れば香港、上海等の各地より、所

謂萬里の波濤を蹴て三伏の暑を此地に避くるもの甚多し。

我國避暑に適する所甚多し。然れども下には碧海港へ上には峯巒秀で、一帯の地沸々として温泉湧き、禽鳥之に集つて啖々、佳花幽草之に生じて其美を爲すに至つては世間亦多からず。我温泉の外人に愛せらるる宜なる哉。

### 温泉に登る道數多あり

一、島原||安中村||深江馬場縣道より岐れ、末實(まつぶ)||二の川を経て小地獄に至る。行程五里。  
二、島原||杉谷||三會村||大三東村の一本松||多比良の魚洗川||長者屋敷||求仙家の麓||國見岳麓を繞り池の原に出で温泉道に出づ。

三、千々岩||木場縣道より岐れ千々岩川に沿ひ||兒落||別所に出づ。行程三里。

此外、布津村堂崎村||小地獄線行程三里、東西有家よりも數條あり。加津佐村、南串山村、北串山村、よりは温泉參詣道あり。何れを取らんも可なり。然れども肥後地方より來るもの外は小濱より登る方路も峻ならずして便利なり。

### 海陸何れを取るべきか

長崎より小濱まで陸路十二三里、八寸の草鞋踏み締めての輕裝、矢上、宇喜等の漁村を過ぎ千々岩村の繪のやうなる景色浴びつゝ行くも興あり。疎早驛まで汽車に投じ、夫より馬車を驅るも興あり。然

三三七



れども茂木港に出で汽船にて小濱に行くは更に興あり汽船賃は六十五錢

小濱温泉

温泉嶽の麓、西北に向ひ千々岩に臨める丘陵の海中に突出したる所、地甚狭少漸くにして家屋を築造する餘地あるのみ。

湯は六ヶ所、湯大夫木田西男氏の所有に屬す。本湯、新湯、天徳湯、明治湯、常盤湯、入徳湯と稱す湯錢は

特別湯	一浴	二十錢
追込湯	一浴	五厘
上等湯	一浴	三錢

湯の性質は、尋常合鹽泉にして從來便麻痺病に特功ありと云へり。小瘡に罹りたるものは此湯に浴して其病毒を外部に發出せしめ後温泉の湯に浴して之を治するを例とすといふ。

旅人宿營業者は三四十戸もあらむ。多くは木賃宿なり。木賃宿といへば直に半風子を聯想すれども九州各地の温泉場附近の木賃宿は自ら其選を異にす。

木賃宿

所謂木賃、膳、枕、皿鉢の食器類と薪代はロハ其他枕、蒲團、炭、皆浴客の負擔、況んや主副食物は必ず浴客自身に調へざるべからず。此外尙客室一間一日代幾錢を徴すること普通なり。是故に農閑の

折遠く佐賀諫早等の各地より來るものは自ら米鹽を持參するを常とす。

小濱より温泉に登るは困難にあらず、婦女子猶且四五時間を費さば十分なるべし。湯の岬より椎木坂の峻坂を攀ぢ城の岩の峰を左に見て一小川に出づ。川を涉れば又峻坂あり、之を登り詰めたる處に巖串とて人家五六十戸の村里あり、湯の岬より十五町。又登れば有家と温泉との分岐點たる笹の辻の茶屋に出づ巖串より十二町。是より舊領主の惣立場に至る此間僅に六町なれども、山路崎嶇頗疲勞を覺ゆ。此惣立場は西方各村を下瞰し景色絶佳なり、是より山腹を廻り野徑を登り行けば峻坂あり。長坂といふ。其右方の谷は札の原より流れ來る泉にして金濱川の水源となるものにて夫の寛政四年の地變の爲め地裂けて谷を埋めたれども次第に滲漏して、再溪流を爲す。

長坂を登り詰むれば札の原あり、人家三三あり。惣立場より二十二町餘。元瀬戸石原といへりしも、是より温泉山境内にして元領主の制札あるが故に札の原と呼び倣せり。小濱より一里十九町、温泉まで尙十八町あり。此平原は大凡二万八千坪あり昔三百坊を置きし所、大なる鳥居あり。其地形富士山下の御殿場と似たり。温泉山上此の如き平地あるべしとは何人も想像せざるなるべし。此地寶永四年開墾して水田を爲したりしも用水乏しく今は半荒蕪せり。是より山腹を或は登り或は下りて遂に温泉に達すべし。

大乘院の緣起

温泉は人皇四十二代文武天皇の大寶元年僧行基の開基にして大乘院満明寺を建立せり。當時三百五十



二坊、高來、彼杵の兩郡にて參百五十町、肥後國球摩郡、山木郡にて千百八十町の田園を寄附せられ、光仁天皇の寶龜九年兵燹に罹りたるを以て、再興の資として肥前國内田一町毎に錢百文を課せらる。朱雀天皇の御宇に再び焼亡したり。後、鳥羽天皇の永久三年僧定増再興し爾來繁昌し千坊となり、瀬戸石原に三百坊、別所に七百坊あり、當山亦朱雀の亂起り瀬戸石原の僧別所の僧坊を焼く。有馬城主有馬修理大夫義純兵を遣りて之を鎮定し、僧侶の愛せる稚童を執へて深谷に投ず。故に其地を「稚兒落し」と呼ぶ。明正天皇の寛永十四年耶蘇教徒大に跋扈し之を焼く大乘院遂に廢絶に歸す。寛永十七年島原領主高力攝津守忠房舊地を興し一乘院と稱す明治維新後、寺は南串山村京泊の末巷に移され、宮は筑紫國魂神社と改む。

筑紫國魂神社は湯の里に在り。元四面宮と稱す。諸冊の御子五柱の神を祀る。清和天皇の貞觀二年從五位上の神位を授けらる。古は朝廷の尊崇甚厚く九州諸國より幣帛を奉せりしも今は郷社となれり。温泉は海拔二千四百尺、東に矢岳を負ひ西に絹笠、石城の二山あり。温泉地獄中より二川源を發し一は有家川となり一は稚兒落の瀑布となり千々岩川の水源となる。五部落あり湯の里、新湯、小地獄別所、札の原是なり、湯の里、新湯、小地獄は共に地獄の在る所、到る所悉く火、されば溝渠、庭隅蒸氣噴出し湯玉を飛ばすの奇觀あり、

注 意 (焦熱の大地獄)

小濱より温泉までは道案内を雇はずとも可なり。然れども一たび温泉に足踏み込みては必ず案内者を雇ふべし。さなくば危險なる處抄からすと云ふ。又山一面に硫黃の噴出せる所あり、紀念の爲にもなご思ひ赤手之を攫まんか、忽ち「デリク」と言して肉々糜爛しつべし。是外面冷却せるか如く見ゆるも其實は火氣充ち満てれば十分の注意を要す。

滿山皆火煮靈泉。 白日失光煙漲天。 沸々有聲行處薄。 恐吾鞋底是深淵。

是温泉を詠するもの、廣袤幾萬坪到る處、噴火し。或は湯玉を飛ばし、或は萬雷の轟くか如し。一乘院の小僧噴煙濺々たる中を導く。三途の川あり、踏み違へては何處に行くらむ。老の坂死出の山路を辿れば、葬所川の婆さん惡念盡きで石と化りてあり。其他猶三十一の地獄あり、八万地獄は火氣既に竭きて今は白泥酸々たるのみ。

別所は四萬坪以上の平地、各所に清水湧出して一面の水田、古へ七百の僧坊泉水の跡あり。北方山麓の溪流は清水塵なく潺湲として流る。

櫻絡躑躅

萼長く、花垂るるを以て名あり。葉は躑躅に似たれども花異なり。又馬鹿躑躅といふものあり、葉細くして地に付く花は淺黄色にして不時に咲く故に此の稱あり。

天女花



「オホヤマレンゲ」と稱す。

### 温泉の名物

凍豆腐は此地の名物、店頭に懸ける「コグワ」カヅラの杖亦名物たるを失はず。

温泉は實に温泉山中の一部にして直立三千三百尺の矢岳は湯の里の上に聳れ、二千八百餘尺の高岩山は南方三十町餘距て、笠ゆ。之に攀つれば天草洋、五島洋など遙かに見はるかされ北有馬、原城趾なども歴史として眼下に在り。

妙見岳は温泉山中高山の一、岳麓池の原には空池と稱する水源なく放水路なき池なり。平常三四千坪に清水を湛ふ梅雨中と雖水嵩稍増すのみにて溢ることなし。夫の伊賀の采女がねくたれ髪を池の藻屑となしたりし猿澤池の案内者が清ます濁らす出す入らずと説明するは眉に唾の感なきにあらねど茲處噴火の眞唯中敢て異むにも足らざるべし。池の原の正面は妙見岳にして頂上までは尙二千尺餘あり。多くは頂を極めずして池の原より野岳に行くを常とす。赤松谷と稱するは明暦四年俄に噴水して山を崩したる跡なり。大崩と稱するは文政三年辰の歳山抜けて洪水あり、俗に辰の水と唱ふるものなり。

### 普賢岳

妙見岳に沿ひ東に下れば普賢岳と連鎖を爲せる豁谷あり、之を「薊谷」とふ。薊草多き故なるべし。此亦古噴火の跡なるべし。やがて普賢境内の石標に出づべし。石折れて停止の二字残れるのみ。此所を

一の宮といふ。龍の馬場と稱する所あり、峻しき坂路を辿れば平地あり、砂礫のみにして「ソウバル」と稱する矮樹、林を爲せり。是より「馬のコーチ」と稱する馬背の如き狭き峻坂あり、其右方の深谷は即寛政四年噴火せし跡にて地獄跡と呼ぶ。東に島の峰あり九十九島と呼ぶ。巨巖怪石の爆破せし時顯はれて宛ら大海に島嶼の浮へるが如きを以て名づく。「馬のコーチ」を登れば屏風岩、高九十尺、幅百二十尺の巨巖錯るが如く峙てり。普賢の石祠は其前面に在り、普賢嶽の頂は最廣くして中に猶數峰あり、中の峯最高く、海拔四千八百餘尺。九州の諸山指順の中に在り。普賢の池には製氷所あり、稍下れば北穴あり、大石累々として相依れる所彫隙あり深さ知るべからず。常に冷風吹けり。秋蠶の種紙を貯藏するに妙なり。(農業部参看)

### 國見嶽

温泉嶽中の最高峰と稱すれども普賢嶽と何れなるかを知らず。道路甚だ崎嶇「ブハメキ」の坂最峻、夫の山は馬頭より起り雲は人面より生ずといへるなどは未だ形容の足らざる心地す。登山を試みたるものにあざれば興に語るに足らざるべし。

以上は只温泉案内として其梗概を述べたるのみ。一度足を失せば或は千仞の谷に墜つべく或は焔々たる噴火の中に陥るべき處も過ぎるべく或は茅葺を力草に峻嶺も攀づべく或は幾十と並べる丸木橋を渡りて「ハツ」と膽を潰すべく、眼眩み足戦慄くの處多からんも湧き出づる清泉に渴を慰すべく、目慣れ



る草木に心を感じべく、海拔約五千尺の絶頂に攀らば直ちに雲漢をも渉るべく、嵐々たる秋風に浴して傲嘯し天地を小にするの概あるに至つては其樂容易に得べからざるなり。

### 特種教育

#### 私立島原女子手藝學校

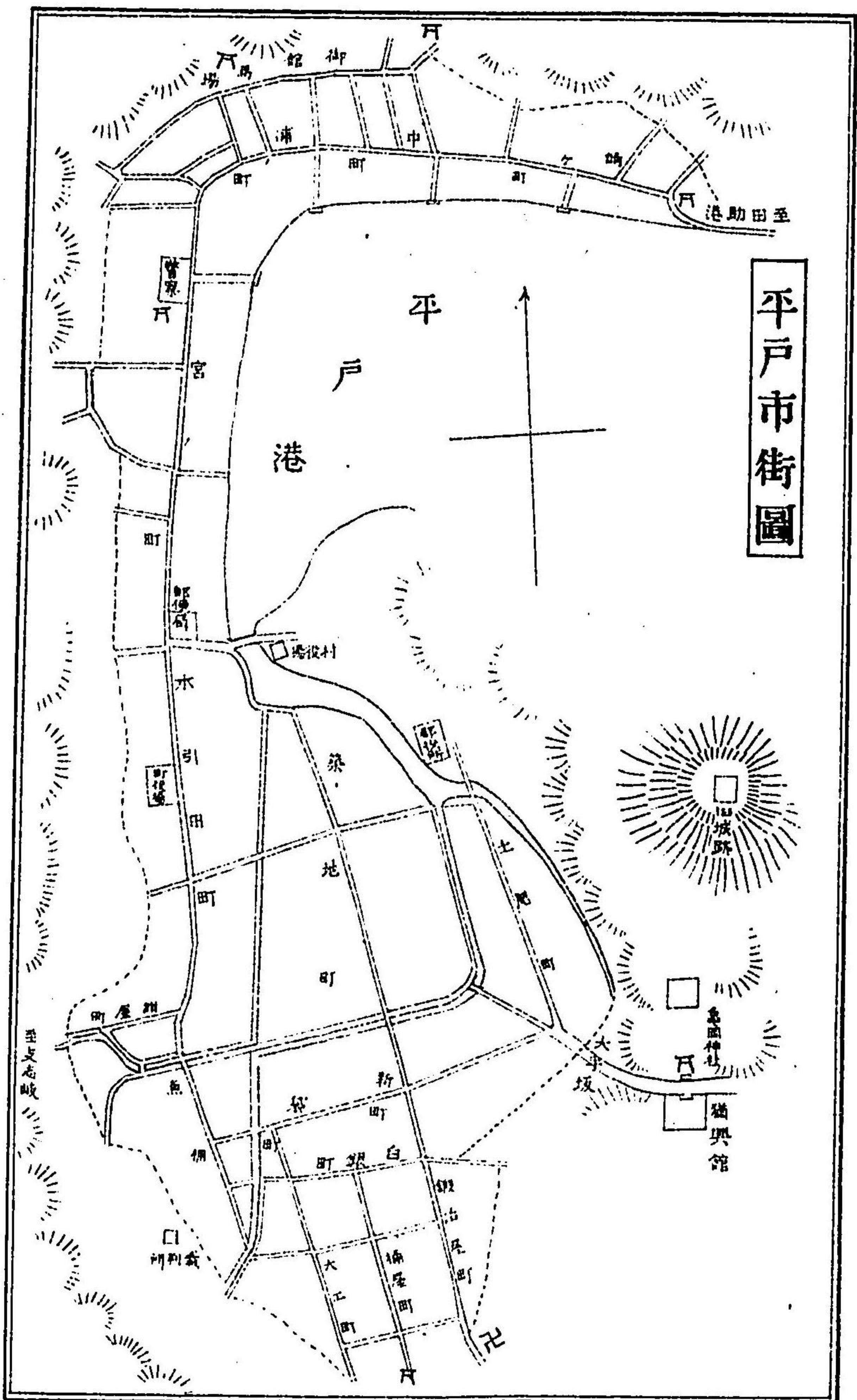
島原町篤志家故清水次郎氏の設立する所、明治三十四年四月創立、初め設立者謂へらく、女子の智徳を進め、且技藝を授け以て其位階を高むるにあらざれば社會の改善得て期すべからず是に於て私有の田畠を捐つて校地とし數萬金を投じて校舎及寄宿舎を建築し、教員を聘し器具を整へ自ら校主となりて經營に一身を抛ちたる結果名聲大に揚り遠近風を慕ひて入學するもの多きに至れり。

#### 私立口之津女子手藝學校

口之津村永野仲藏氏の設立、明治三十五年九月創設。島原女子手藝學校の設立を賛し且口之津は徒遊の女子多き地なるを以て之を救はむとて設立したるものなり

#### 私立口之津幼稚園

園主は口之津村の豪家南彦友氏、早稻田大學の卒業生、名譽を望むにあらず、利祿を貪るにあらず、唯一身を幼稚園に捧ぐ。且傍ら口之津港石炭運搬夫の子弟を集め、之に文具一式を與へて教育す。蓋彼等勞働者は多く琉球諸島の者言語通せず。爲めに學校に通ふことを嫌ふの風あり。南氏之を視て憐憫





に堪へず即彼等の爲め自宅の傍に一家屋を設け机を列べて教授すといふ。

## 第七章 北松浦郡

### 第一節 概観

本郡は地方、平戸群島、宇久列島及其他の島嶼より成り東は島帽子嶽、國見嶽、知見嶽等を以て佐賀縣西松浦郡に界し、東南は東彼杵郡に接し、他の三面は海に瀕めり。平戸島は地方と僅に六町の平戸瀬戸を隔て、其西部に横はり、生月、度島、大島等は其西北部に散布し、宇久列島は遙かに海を隔て、五島列島と津和崎瀬戸を以て境を分ち、鷹島、福島等の群島は佐賀縣東松浦郡と僅に一帯海水を隔つるのみ、山嶽の重なるものは島帽子岳、國見岳、等の諸山脈連亘して到る處に起伏し瀬戸辻山最も高峻と稱せらる。河川は志佐川、佐々川等重なるものにして其流域五里乃至七里に達するものあり、平戸島に安瀾嶽あり高さ千八百尺、此附近航海者の好目標と爲す所なり。

戸數二萬三千六百九にして、人口十三萬九千八百五十なり。

郡を分ちて平戸町、平戸、大島、生月、中野、獅子、紐差、中津良、志々伎、黒島、笛吹、前方、柳平、神浦、南田平、田平、星鹿、御厨、志佐、上志佐、調川、今福、福島、鷹島、江迎、鹿町、小佐佐、吉井、世知原、中里、山口、大野、皆瀬、柚木等の一町三十六村とす。



### 第二節 農 産

米、麥、豆、甘藷等其重なるものなり。

平戸牛は平戸島に飼育せられ、牧畜部参照。離島宇久、平村には養鶏盛んに行はれ宇久交趾の名あり。

### 第三節 水 産

平戸海峡の捕鯨を首め沿岸到る處各種の漁場ありて。鯛、鱈、鮪、鰹、烏賊、飛魚、等の漁獲多く海藻類、の産額も亦少からず。

### 第四節 名 勝

#### 平 戸 港

平戸港は瀬戸に臨める一港にして、港に臨める町村は人口僅に一萬に上らずと雖も田助の良泊地ありて附近の貨物集散し郡内第一の都會たり此地城古の外國互市場として其の名顯はれ和蘭塀、和蘭井戸等の舊趾あり。博多を下りて長崎佐世保の地に航するに小蒸汽船に搭じて路を洋人が「スペックス」海峡と稱する所の平戸の瀬戸に取るものあらば、岩礁狹隘にして潮流急馳なる峡門の北に當りて必ず、數併

の高陵海濱に峙ち、鬱々たる長松の間數層の古城閣は僅に一兩基を存し、蚤風濔雨に曝されたる廢殘の白壁は、轉た行人に懐古の情を催さしむるものあるを見む。是平戸城墟にして、この墟と相抱持して一小灣を包める市街は、即嘗て歐洲貿易市場の地なり云々と平戸貿易史にいへる所正に是、海頭に數百の島嶼星散羅列せり。俗に之を九十九島といふ。島形、松影、苑として松島の如く風光絶佳、海山の致を極む。  
縣立中學猶與館及私立平戸女學校あり。

#### 生 月 島

平戸島の西北の玄海灘の怒濤中に漂へる島なり。平戸の鯨獵と稱するものは多く此生月島を云へるものなり。

#### 黒 子 島

平戸海峡の中央に横はる。周圍十町餘全島老樹鬱蒼或は枝を垂れて波に浮び或は天に沖して風に傲り、海峡の急流は岸を洗つて流れ風光明媚、盛夏と雖此地に遊ばば殆むと夏を忘れん。島の樹木中には熱帯地方の樹木あり植物學上の研究に價するものあらむ。又島中に一祠あり、小値賀島の大應庵の辨財天を移し祭りしものにして像は弘法大師の親ら造る所、代々海上安全を祈れりといふ。

#### 自安和樂踊



平戸に行はるる古俗の豊年踊、笛を吹き鉦鼓を打ち鳴し「穂長ふ穂實て」と歌ふ様頗る愛すべし。傳へ曰ふ、元龜三年七月對馬の宗采女兵船を襲ひて壹岐を攻め、戦ひ敗れて遁走し風潮に漂はされて平戸海峡廣瀬に到るとき、征旗飄つて鉦鼓の鞆々たるを聞き備ありとして遁れしといふ。時に七月十八日、彼れが見て備ありとなしたる征旗鉦鼓は實に「ジャングワラ」と稱する風止めの祭なりしなり。是より後藩政時代には吉禮として年々歳々此日を以て此節を催せしめられ今に至るまで恒例とす。

鄭成功の碑

千里ヶ濱の一方數株の老松緑濃かなる所に一大碑あり。此れ明末の忠臣鄭成功遺蹟の碑、成功の母は河内浦の土豪田川某の女にして成功の父芝龍に嫁して成功を生じ。近松が「國姓爺」に上りてより山樵漁夫すら尙且其徳を慕ふ亦偉ならずや鄭成功の宅趾及手植の竹柏樹(俗に力柴といふ)今尙存せり。

平戸植松の捕鯨

長崎縣下の捕鯨事業は舊幕府時代より天下に顯はれ生月の捕鯨家益富氏の如きは富、王侯に擬すと稱せられたり。現存せる縣下捕鯨組合の認可を得たるもの實に七箇所就中平戸植松組は平戸海峡に於て地の利を利用して米國式に擬したる方法を用ひて捕鯨を爲すものなり。圖は平戸村風川浦植松海岸の納屋前に於て長須鯨二頭捕鯨牽上げの景なり。

河内浦外國居留地

是恐らくも蘭人の筆になりしものなるべし。畫は額面に書けるもの、その裏面には

阿蘭陀船平戸へ通商開業千六百九年(慶長十)より千六百四十一年まで(寛永十)三十二箇年の間同所來朝商館の圖。

- 一枚平戸侯に献上に成
- 一枚石橋氏秘藏

此圖三枚 一枚同氏八十有餘老翁諸立合通詞助左衛門殿より賜之。

天保八(一)三月十五日 (長崎廣瀬氏藏)

とあり。蓋し河内浦は平戸港の南一里東に而して海水深く灣入するところなり。初め葡萄牙人の平戸に貿易場を開きてより歐洲諸國人の争ふて平戸に來り非常の繁榮を來し遂に水源を築きて市街となしたりしかば港底漸く埋没して多數の船舶を寄泊せしむるに不便となれり故に後には蘭船英船は平戸港に上荷してこの河内浦に碇泊せしものなり。さればこそ商館本部は平戸町に置かれしも外人の居留地倉庫がこの浦にも數多建てられしなり。

繪は實にその倉庫居留地を描きたるものとす。浦の東北千里ヶ濱に通ずるところ一ト丘あり丸山と云ふ。貿易の盛時は遊廓の地なりき。今の長崎市丸山の名も寛永十八年和蘭船貿易が長崎に移されしものと云ふ。



### 龜岡神社

舊城趾に在り明治十三年社殿を新築す、縣社にして舊藩主松浦伯祖先を祭れり。

### 鶴峰邸宅 (御館)

龜岡と相對し千歳岡より松浦伯爵の邸宅なり今より七百年前松浦家第十一世の祖照山公、諱持、寛永四年龜岡城に移るまで前後凡そ五百年間松浦家の邸宅なりき。近世御館山と稱へ古松老杉鬱蒼たり。明治二十四年に工を起し荆棘を芟除し荒蕪を開拓して舊殿の圖に模擬し樓閣を造營したるものなり。

### 中學猶興館

本館は平戸龜岡神社の前丘に在り。初め猶興書院と稱し松浦伯爵が舊藩士の子弟の爲に設けたるもの。明治三十五年に縣立となれり。

### 蘭人使用の古錨

慶長元和の頃蘭船の寄泊所なりし河内浦の海底に沈みたりしもの天明二年に引上げたるものなり。

### 海外貿易船首の木像

慶長元和の頃(今より三百年前)蘭英の商館平戸港に設置せらるるや顔思齋、楊天生、鄭芝龍等の支那人も相前後して來り寓し、平戸を根據地として海寇を事とせしことありき。當時平戸の人にして八幡船に乗じ海外貿易に従事せしもの少からざりき。小川理左衛門(宗理)亦其一なり。曾て邸宅を平戸鏡川に構へて老

を此所に養ひたりしが寛永十三年肥前守隆信此地を賜ひて永代居屋敷となさしむ。

圖は小川庵内に在りしものにして海外貿易船の船首に飾りし木彫の像なり。當時貿易船の構造は長さ二十間横巾九間にして乗組人數三四百人内外なりしと。英國大使「マゴドナルド」氏曾て平戸に遊び此像を見 向つて左の一を指して曰く此像は服装は「ナイト」以上の者なりと。

### 和蘭陀堀

慶長十四年和蘭商館は平戸崎方町に、其後五年吉利商館は平戸町に設置せられ支那人亦來りて寓するあり。毎年四五艘の外國船は貿易風に乗じて去來し滞在往往半箇年に涉ることあり。かくて平戸港は頗る繁榮を極めぬ。元和九年等しく平戸を去りたれども蘭商館は寛永十八年長崎出島移轉まで前後三十三年間居留し崎方町の海岸に防波堤を築き埠頭を設け倉庫數棟を建て市街と居留地との境界に石堀を構へ本館構造の如きは頗る宏壯なるものありき。堀の長二十間餘高さ七八尺堅牢なること普通の土堀の比にあらず。圖に見ゆるもの。即ち之なり。又堀の下に和蘭陀井と稱するものあり。井は一なれども井筒は石造にして二なり。居留地内の大埠頭に通ずる崖下にあり町民今尚ほ其れを汲めり。此井蓋し本館建物の一部に接し井筒の一は屋内より汲み一方は屋外より汲みて船中の用に供したりと。

### 判田五衛門(コルネリヤ)の彫像

阿蘭陀商館の平戸崎方町に建設せらるるや大阪堺等の商人來て通商に従事するもの甚だ多し。判田五



衛門の如きは平戸延命町に商店を開き、廣く蘭英の舟人と交はる。五衛門一女あり名を春と云ふ。父の死後擁せられて「バクビヤ」に至り蘭人に嫁し子を産む。居常母を慕ひて纏綿の情に堪へず。曾て己の肖像を木牌に刻せしめ、唐船に托して平戸に贈る。圖中一子を抱くもの之なり。木牌は未許判田某の家に藏す。世に傳ふる所「ジャガタラ」文なるものと對照して共に其可憐の心情を窺ふに足るべし。

### 第八章 南松浦郡

#### 第一節 概観

中通島、奈留島、久賀島、福江島、宇久島の五大島と數百千の島嶼とを總稱して五島といへりし、廣藩當縣以來宇久島は北松浦郡に編入せられて今は四島となれり。五島列島、平戸島、壹岐、對島の島嶼は宛然本縣本土の墻塹の如く纒に二三の瀬戸より水を入れて固く封鎖せり。郡内到處良灣佳港に乏しからず。高山大河に至つては地勢上數ふべきものなし。戸數一萬四千六百十六、人口九萬一千四百五、郡役所は福江村にあり。郡を分ちて、福江、奥浦、崎山、本山、大濱、富江、岐宿、三井樂、玉之浦、久賀島、奈留島、樺島、日島、若松、濱ノ浦、青方、魚目、北魚目、有川、奈良尾の二十箇村とす。五島列島中「いつき」と稱する部落各處に散在せり。彼等は海濱に生活せずして多く山の手に住す。是寛永の耶穌教禁令の出でてより、同教信者の此島に流

されたるものの子孫なりと云ふ。

#### 第二節 農産

本郡は大小の島嶼悉く海に瀕す。故に郡内平野沃土に乏しく農作物の如きは大豆、甘藷等を除くの外は他よりの輸入を仰がざるべからず。肥料は海岸にありては、魚肥或は泥沙等を施せども山村にありては充分の施肥を爲さず、或は隔年作とし一年は甘藷を植え翌年は草の生ふる儘にし其翌年草を焼きて肥料となすなどの處も少からざるが如し。

郡内耕作用としては重に牛を用ふるが故に終生馬を知らざるものあり。多くは厩舎飼なれども放飼も亦尠からず。農夫の耕作運搬に使役せんと欲する時野に出で口笛などにて自己の牛を呼び來り。終日勞役に服せしめたる後復た野に放てば彼等は欣々として各其欲する所に遊び、食を求め、其影所を求めて決して飼主を煩はすことなしといふ。其の強健と伶俐とを以て五島牛の名あり。縣下西彼杵郡東彼杵等より來りて購ふもの年々數百頭の名きに達すといふ。蓋本郡重要な輸出物たるなり。本郡内には鹿、猪住めり、鹿殊に多し。獵して長崎に輸出す。茲に不思議なるは狐狸の棲息せざる事なり。従つて狐狸に關する傳説などもなし。其他兔、鶯などは甚多し。

#### 第三節 水産



五島嶋 鯨節は本縣内對馬と共に其名譽國內に噴々たり。女男島列島の珊瑚亦天下の逸品、有川の捕鯨事業は舊幕時代より世に知られたるもの、近く五六年前まで村民は村税の何者たるかを知らず。悉く富裕に世を過したり。蓋捕鯨の利甚多く其利益の幾分を控除して村費に宛てたるが故なり。

#### 第四節 名勝

##### 福江港

長崎港より鯛の浦を経て六十八里約九時間にて達するを得べし。五島列島中の最南端、福江島の東北に面せる一港なり。港内水淺く、且風波を避くるに便ならざれども、前に螺螺島、庵丁島の二島を控へて所眺望に富む。市坊の傍に舊福江藩主の城趾あり。常に海水其無崖を洗ふ。老松蒼葱たる處縣立五島山學あり。

福江城は大永元年、宇久大和守盛定の築所、其始祖武田次郎信弘文治三年初めて南松浦郡に入り城を宇久島山本に築き之に居れり。後五島氏を稱するものは二十世の孫大和守純玄に始る。八世尾張守覺は永徳三年岐宿島に移り、九世伊豆守勝は喜慶二年成辰を以て福江島龍江寺に居る。其後數世之に據る。十六世肥前守圓妹婿玉浦の爲に滅さる。十七世盛定賊を討ち領地を復するに及びて城を江川に移す。是即ち今の福江城なり。慶長十九年祝融に罹り嘉永二年三十世左衛門尉盛成之を再建す。盛成の

嗣子は即飛彈守盛徳にして明治維新に至りて版籍を奉還せり。

##### 富江港

舊福江支藩の城下にして、福江港の西南二里許にあり。港内水深く且諸群島の其門戸を鎖せるを以て碇泊に便なり。女男島列島の珊瑚採集業者の根據地にして諸方より來集せる船舶數ふるに遑からず。是を以て常に殷賑、附近の山よりは石版石を出す。

##### 有川港

捕鯨業を以て著はる。魚目、北魚目共に捕鯨組合たり。鯨群の來りて有川灣に集れる時之を捕ふるの、他の遠洋に出漁するもの二あれども多くは鯨群の此港頭に遊弋せるを捕ふるを。汽船の便あり、長崎より福江に至るもの鯛の浦に寄港す。鯛の浦は有川村の背面にして陸路一里餘に過ぎず。

##### 玉之浦港

福江島の西端にあり大瀬崎半島と島山島とを以て海水を湛へたる大港にして、到る處水深く五六百噸の船艦をも直に著岸せしめ得べし。且港内無數の岬角突出して風光甚だ佳なり。富江港と共に珊瑚の集散地たり。大瀬崎に燈臺あり。

其他三井樂村は、古、美瀬良久之濟、或は曼樂崎といへりしものにして遺唐使の船舶多く此地を以て



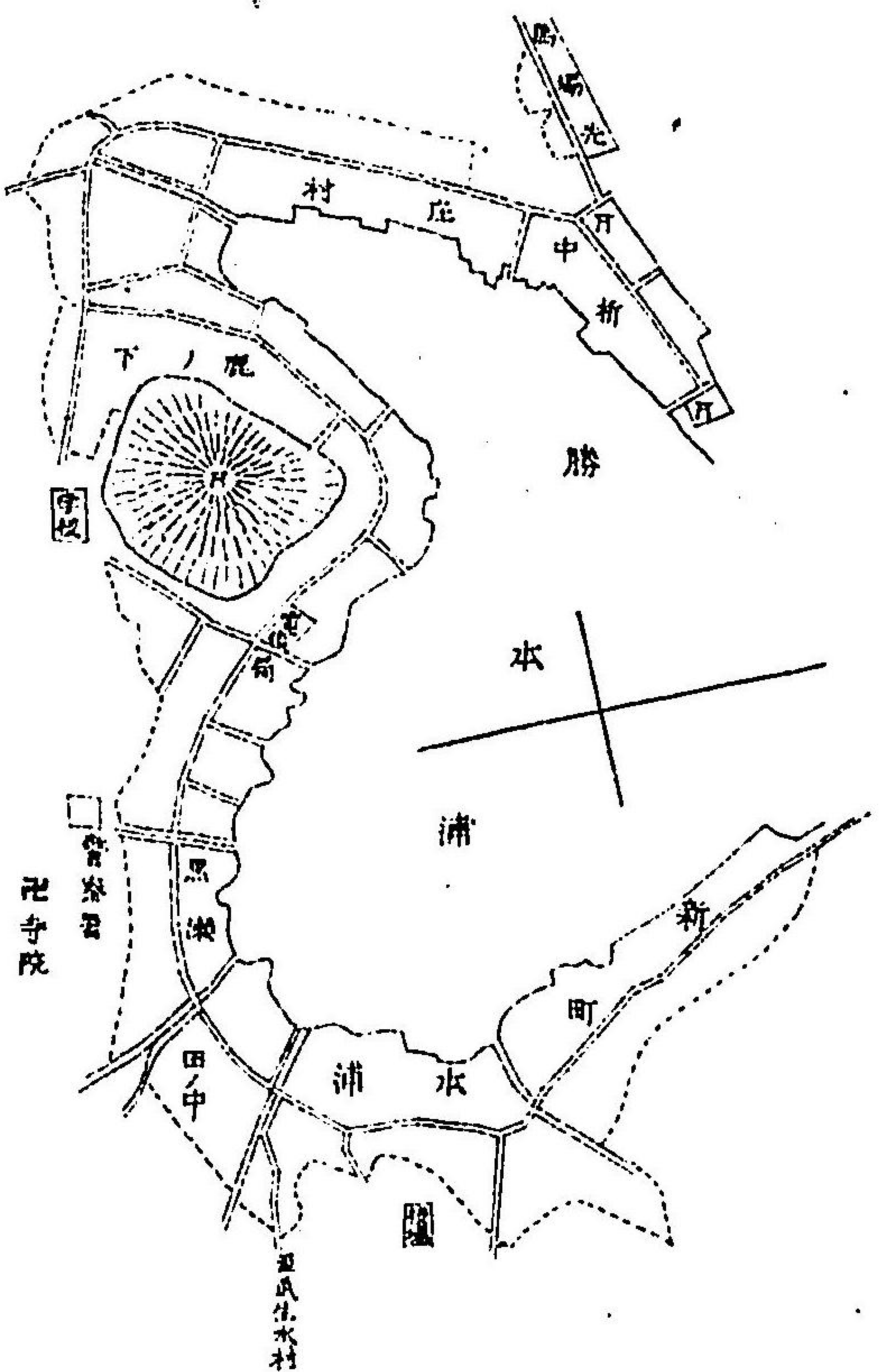
我國最後の出帆地としたりしが如し。

## 第九章 壹岐郡

### 第一節 概観

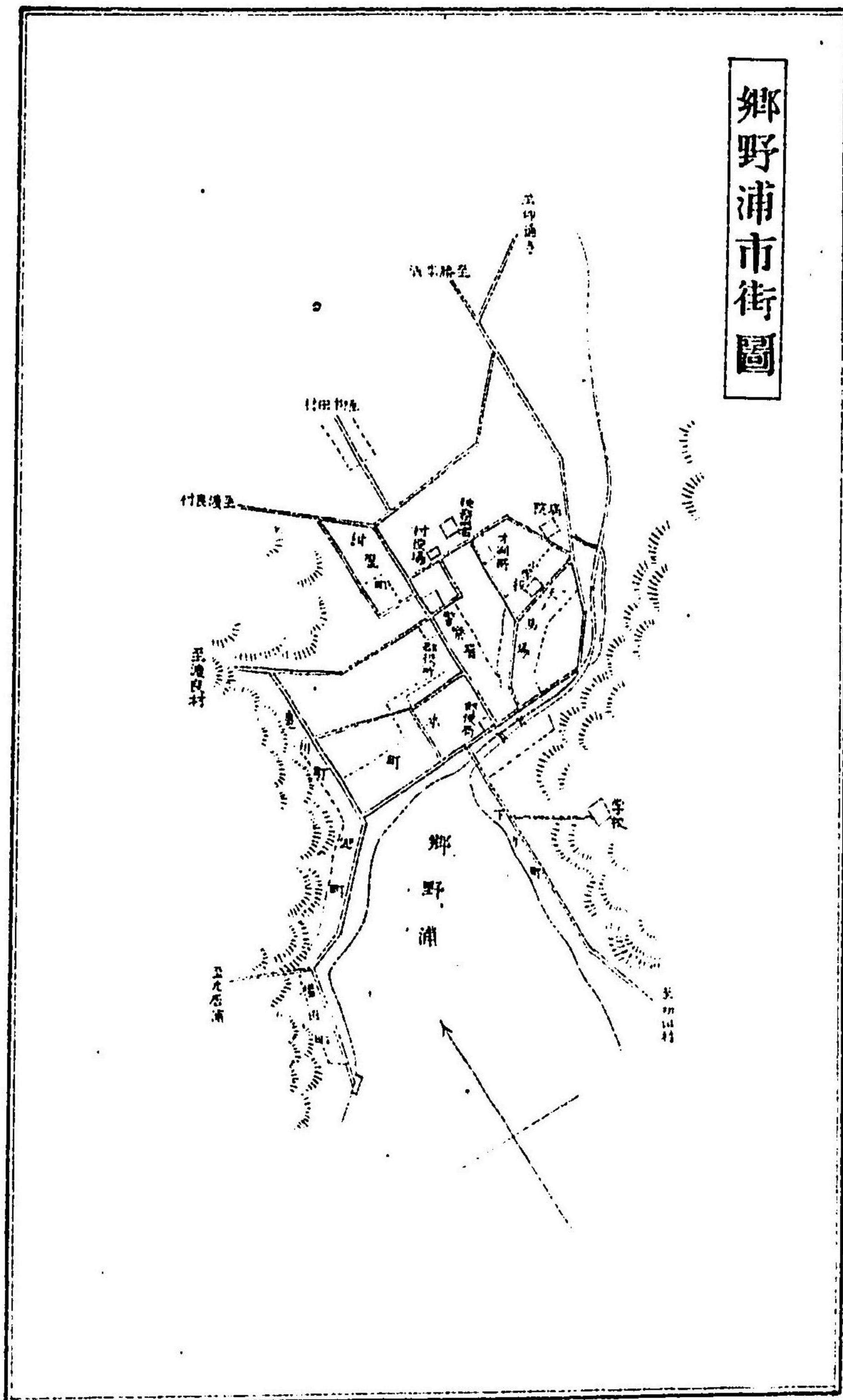
周回三十五里餘、東西二里餘、南北四里餘の一國一郡より成り、北松浦郡と日本海の一水道を扼せり。古へ國府を國府村に置きたり。鎌倉の時小貳氏島民を治たるも後肥前松浦黨の志佐、佐志、鹽津留、呼子、鴨打の五氏をして共に島事を掌らしむ。文明四年肥前岸嶽の城主波多泰來襲して悉く五氏を滅し全島を併せて武生水村に龜尾城を築き、自ら守護と稱せり。天文申泰の孫盛幸して子なきを以て、肥前右馬義直の子親を迎へて嗣としたり。時に族人之に服せず。盛の從子隆を奉じて主となす。弘治元年、隆其下に殺され親遂に守護と爲る。既にして其臣日高喜等其邑に據て叛き、永祿六年松浦隆信に款を送り波多氏を逐ひ、全島遂に松浦氏に屬せり。徳川氏政を掌るに及びても封故の如く、明治の新政に及びて平戸縣下に屬し又改めて長崎縣の管轄する處となれり。四面環海加ふるに大小の島嶼星羅棋布し到る處船舶を泊せしむるに足る良港あり、山嶽何れも小にして數ふるに足るものなく、嶽の嶺、魚釣山等あれども一千尺に滿たず。河流の大なるものは源を住吉村山信に發し東流して物部村を經再び深江村川内尻に至り海に入る幡鉢川と谷江川との二川あるのみ。

勝本市街圖





鄉野浦市街圖





## 交通

武生水村を起點として勝本港に至る一線及武生水村起點蘆邊、印通寺村に至る二線あり。  
汽船は。本縣補助航路あり往航は長崎港、平戸、郷之浦港に寄港して對州に至り、復航は對州、勝本港、博多、郷之浦、平戸を経て長崎に至る。其他不定期航海の汽船亦尠からず。戸數七千八百五十七。人口三萬八千百八。  
郡役所は武生水村に在り。一郡を分ちて武生水、渡良、柳田、沼津、鯨伏、香雄、箱崎、那賀、田河、石田、志原、初山の十二村とす。

## 第二節 農産

主要なる産物は大豆及耕牛にして牛は遠く筑前、佐賀等に輸出せらる。

## 第三節 海産

鮑、鰯、海參、雲丹等主なるものにして、近年鮑、鰯漁甚盛なり。

## 第四節 名勝



### 武末城址

勝本港の背面西南に屹立し、松樹の蒼鬱たる國有林の中にあり。豊臣太閤の朝鮮を征するに方り、此地に城郭を構へたるもの今尙其趾を存せり。一たび登臨すれば脚底に勝本港を瞰制し西北は煙波漂渺の際淡く對州を認むるを得べし。

### 住吉神社

郷之浦港より勝本港に通ずる縣道に沿ひて那賀村の中央に在り。郷之浦港を距ること僅に一里餘。國幣中社にして祭神は底筒男命、中筒男命、長筒男命の三神にして本道有名の古社なり。境内甚廣く且社殿廻廊莊嚴を極む。

### 郷之浦港

壹岐島の西南端に在り。大島、長島、原島等之を圍めて良港を爲せり。縣下平戸、長崎、嚴原各港及縣外博多港韓國との汽船の往復頻繁にして旅客の上下貨物の集散頗盛なり。病院、學校等ありて郡内諸港中商業最盛賑を極む。戸數三百、人口一千五百。

### 勝本港

郷之浦港を北に距ること四里、壹岐島の北端に在りて對馬と壹岐北水道を扼せり。港内水深く船舶の碇泊頗便なり。嚴原、博多、馬關及韓國各港間交通の要津なり。戸數五百、人口三千二百。

### 平景隆の遺址

文永の役、元寇我壹岐を侵す。守護代平景隆力戦能く拒ぎしも衆寡遂に敵せずして居城に火を放ちて身亦難に殉せり。明治二十九年正四位を贈らる。墓側碑あり故三條公の篆額、松浦侯の撰文を刻せり。社殿瀟酒、頗幽趣に富む。勝本港の東南一里許、香椎村新城に在り。

### 小貳資時の遺蹟

弘安の役元寇再我壹岐を侵す。大宰少貳經資の子資時本島防禦の衝に當りしが遂に敵鋒に斃る。里人相謀りて遺蹟保存の策を講せりしに明治三十七年三月宮内省より金圓御下賜の沙汰ありて其機運の漸次熟しつつあるを見る。勝本港より約二里、箱崎村瀬戸浦市街の東方に在り。

### 鬼の岩屋

俗に鬼の岩屋と稱す。巨石を疊み上げたる石窟にして郡内各地に點在せり。那賀村國分に在るもの最大なり。其外圍は東西二十八間、南北三十間、周圍七十五間、高八間餘を四室に區劃す。約二百餘人を容るべし。諸説紛々たりと雖未だ確説なきが如し。世の考古家の來りて研究の資とせられんことを望む。

### 湯野浦温泉

合鹽鐵泉にして胃腸加容兒、肺結核、痔疾に特効あり。地僻遠にして設備未だ整はざるものあれども。



島内の人浴者常に絶へずといふ。

三六〇

### 第十章 上縣郡、下縣郡

#### 第一節 概観

壹岐島の西北、韓國釜山港、東南に二大島と無數の島嶼より成れるもの之れ對馬にして分つて上縣、下縣の二郡とす。下縣郡は周圍五十里餘、東西約三里、南北五里餘。上縣郡は周圍百三十六里、東西四里、南北九里。壹岐郡勝本港より下縣郡嚴原に至る海路二十二哩餘を隔つ。戸數七千七百四十七、人口四萬五千三百八十。

抑對馬に國府を置きしは白鳳十二年にして與日郷櫻川の南に正廳舎を建設したり、是府中の稱ある所以なり。中世以降國司任に赴かず、常に椽官に委任し以て國事を掌らしむ。之を在廳と稱す。元暦年間對馬守親光平氏の難を避け高麗に航す。此時在廳阿比留國時自ら權威を恣にし頗る國民を虐す。寛元四年宗重尙大宰府の令を受け來り討す、遂に國時を滅して國中を平定す、重尙は則藩主宗氏の祖なり。爾來世々之を領し、或は目代と稱し、或は地頭と稱す。然も常に大宰府に在て遙に國政を聽くのみ。六代の孫宗經茂に至り弟頼次を以て代官とす、頼次其居館を下縣郡二位郷に營じ、應永九年頼茂來て其任を繼ぎ更に上縣郡三根郡志多賀村に徙す。同十五年貞茂之を同郡佐賀村に徙し、四世相嗣々文明

年間徙て下縣郡國府の中村に居る。文永六年將盛池の地に遷る後世今屋敷と稱す其庶族九郎盛治なる者あり、亂を起す、攻撃漸く平ぐ。此時池の地の居館遂に兵燹に罹り燒燼す。享祿元年將盛城を金石に築き之に居る、即ち金石城是なり。嗣で義真に至り殊に居城の狹隘なるを厭ひ、更に椽原に於て新に別館を下す、蓋し當時既に朝鮮と好を通じ使者互に相來往するに因るなり。延寶六年工竣る乃ち遷て之に居り以て國政を聽く。明治二年府中を嚴原と改稱す、此年重正藩知事に任ずるに至り之を藩廳とす。同四年藩廳して縣となり、縣廳して伊萬里縣に合し遂に廢縣となる。而て伊萬里縣出張所を嚴原今屋敷町に設く。同五年轉じて長崎縣に合し長崎支廳を同所大手橋町に置く、同七年之を同所國分町に徙し、後ち之を廢す。

#### 朝鮮國草梁館の創設

草梁館は慶尙道東萊府府は都表を距る九百四十里益山鎮の西、草梁村に在り。延寶六年創設す。其境區東西三百七十二步四尺、南北二百五十六步、對馬國を距る四十八里。一説二十五里、又十九里

#### 朝鮮修好の沿革

對馬國司宗重尙六世の孫、宗經茂會て好を高麗に通せり。高麗亡るで國號を朝鮮と改む。高麗恭讓王亡ぶ王となり國號を改め朝鮮とす是を大朝國號と稱す明洪武二十五年なり宗頼茂亦之と好を結ぶ。宗貞茂之を嗣ぎ殊に優待を加ふ。應永二十六年朝鮮兵を擧げて來り侵す、蓋し我備へなきを視ふなり。貞茂之を邀て大に淺茅浦に戦ひ遂に之を退く、



其子貞盛職を継ぎ再び和を講ず。嘉吉三年歲遣船五十隻を約して送使條約を成す、此時朝鮮沿海の地に於て碇泊處三個所を定む、本邦の人民居留する者亦數百戸、熊川の齊浦、東萊の釜山浦、蔚山の鹽浦是なり。而して人民の朝鮮に航する者は必ず宗氏の文引を齎す、若し文引なければ則朝鮮敢て之を納れず。享徳元年朝鮮使を宗成職に遣り以て慶弔の禮を修む。永正七年明の正徳五年大内義興使を朝鮮に遣るや敢て宗氏の文引を齎さず、朝鮮固く之を拒む。使臣之を争て曰はく、我大内公は則鎮西の都督たり、宗氏は其管屬のみ、亦何ぞ彼れの文引を要せんやと。朝鮮已を得ず遂に之を接遇す。後、宗盛、歲遣船を發するに當り朝鮮却て之を拒ぐ、義盛大に怒り一族盛弘をして精兵三百を隨へ往て之を撃しむ。盛弘進で齊浦を陥れ僉使李友會を殺す。於是朝鮮の防禦使柳聘年等大兵を催し來て之を防ぐ、盛弘自ら乘寢敵すべからざるを察し、從兵二十三名を還して其狀を義盛に報せしめ孤軍を提て直に柳聘年等の陣を衝き遂に熊川に戰歿す。於是和約再び破る。後、足利氏僧弼中を朝鮮に航せしめ以て舊好を修む、此時歲遣船五十隻を減じて其半數とす。宗盛長の世に當る天正九年、歲遣船の數を復して五十隻となす。宗義調の世に當る

文祿元年豐臣氏大兵を驅て朝鮮を伐つ、和約破る。徳川氏代て將權を執るに當り、宗義智をして更に隣好を修めしむ。慶長十二年和議成る。此時歲遣船二十隻を約し、居留地を釜山浦に設く。然も地區狹窄且船隻碇泊の不便を屢ひ屢之を議す。寛文十二年議成る、乃ち居館を草梁頂に遷す。延寶六年造

築工竣る、今の草梁館是なり。明治元年王政復古朝廷更に宗重正をして朝鮮修好の事を掌らしむ。同四年嚴原藩廢せらるるに及び重正の職を解く。是を朝鮮修好の沿革とす。朝鮮國通好以來三たび交表を絶ち三たび之を尋ぐ嘉永三年送使條約を結びしより百二十三年を經と云ふ

對馬は東西に狭く南北に長し。中央劈開して一大灣を作せる處、我竹敷要港の在る所なり、灣内水深くして優に大艦を容るべし。島内峰巒相接して地味肥沃ならざるが如しと雖、樹木の生育甚速に且常に鬱葱として繁茂せるを見る。山嶽は上縣郡の三嶽、下縣郡の城が嶽、白岳、有明山、矢射立山最高峻にして、河川の重なるものは佐護川及佐須川等なり。

上縣郡を分て、三根、津柳、青海、木坂、狩尾、賀佐、吉田、櫛、佐賀、志多賀、伊奈、志多留、越高、御園、犬浦、瀬田、樫瀧、伺所、鹿見、久原、女連、小鹿、一重、葦見、琴、舟志、中原、五根、猪、比田勝、大増、玖須、濱玖須、唐舟志、富浦、網代、古里、西泊、泉、豊、鰯浦、大浦、河内、西津屋、佐須奈、佐護の四十五箇村とし、樫瀧村外十村、佐須奈村外二村、比田勝村外十三村、三根村外九村、琴村外六村の五組合村を置き、各戸長をして管理せしむ。

下縣郡を分て、棧原、宮谷、日吉、天道茂、中村、今屋敷、田淵、大手橋、國分、久田道の十町と嚴原、久田、尾浦、安神、久和、内山、與良内院、豆酸内院、豆酸、豆酸瀬、佐須瀬、久根濱、久根田、令、上槻、椎根、樫根、下原、小茂田、阿連、今里、鷓知、根緒、小浦、曲、南室、洲藻、箕形、吹



崎、加志、尾崎、竹敷、黒瀬、葦浦、大船越、久須保、緒方、犬吠、小船越、鴨居瀬、蘆浦、濃部、大山、島山、和板、仁位、佐志賀、嵯峨、貝鮎、糸瀬、賀谷、横浦、鏡川、千尋瀬、曾、卯麥、大綱、田、銘、小綱、志多浦、佐保、貝口、唐洲、廻の六十四村とし、今屋敷町外十町、竹敷村外三村、鶏知村外九村、久田村外九村、小茂田村外八村、和板村外十村、大船越村外八村、卯麥村九村の組合町村を設け、戸長をして之を管理せしむ。島司ありて、十町百九箇村より成れる二郡を管轄す。

### 第二節 農 産

椎茸は本島の重要産物にして年々大阪方面に輸出す。其他甘藷、煙草等を産出す

### 第三節 水 産

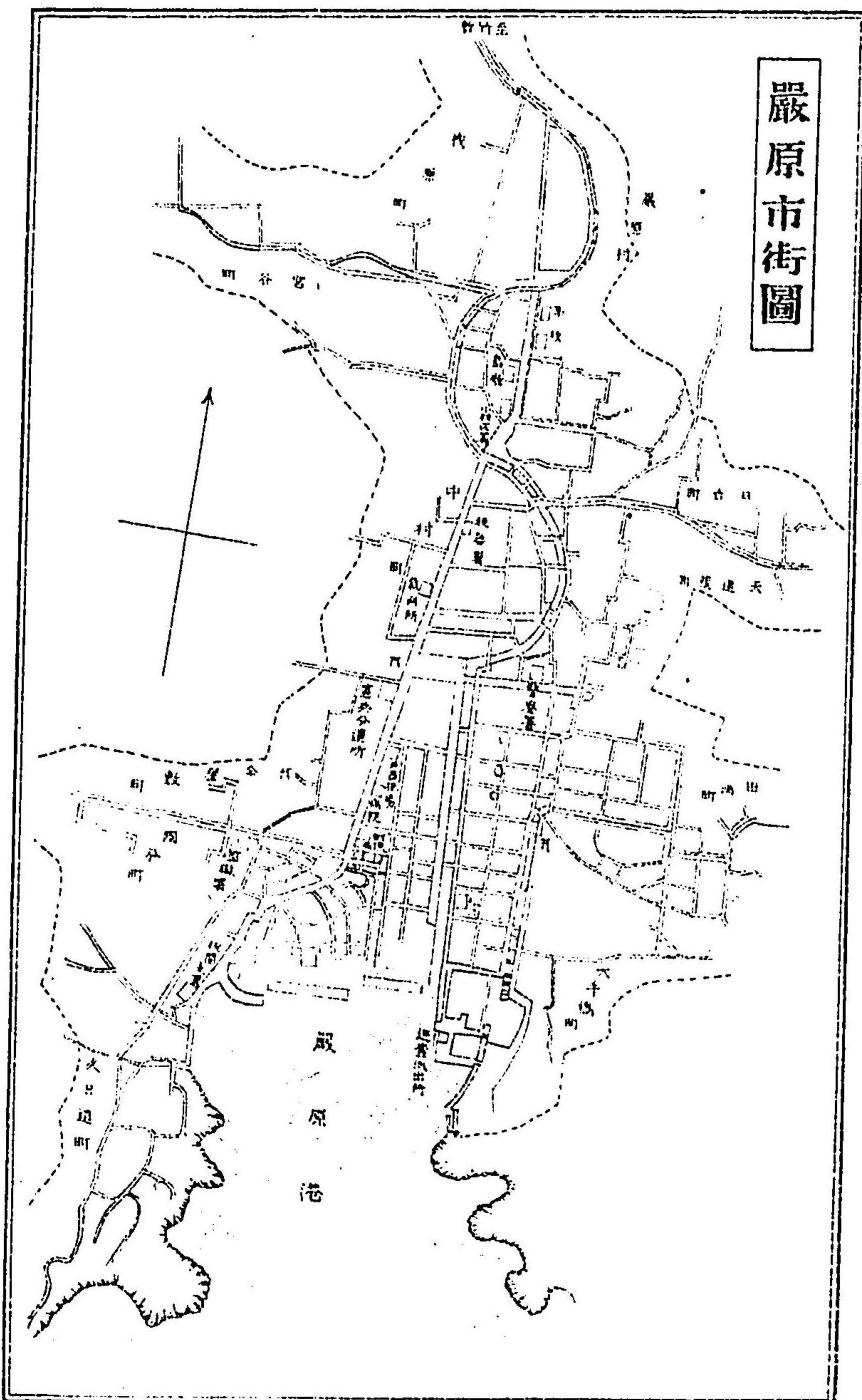
寒暖兩流の其沿岸を流るを以て魚屬甚多し。鰯、鯉、鯖、鰯等を其主なるものとす。

### 第四節 名 勝

#### 海神神社

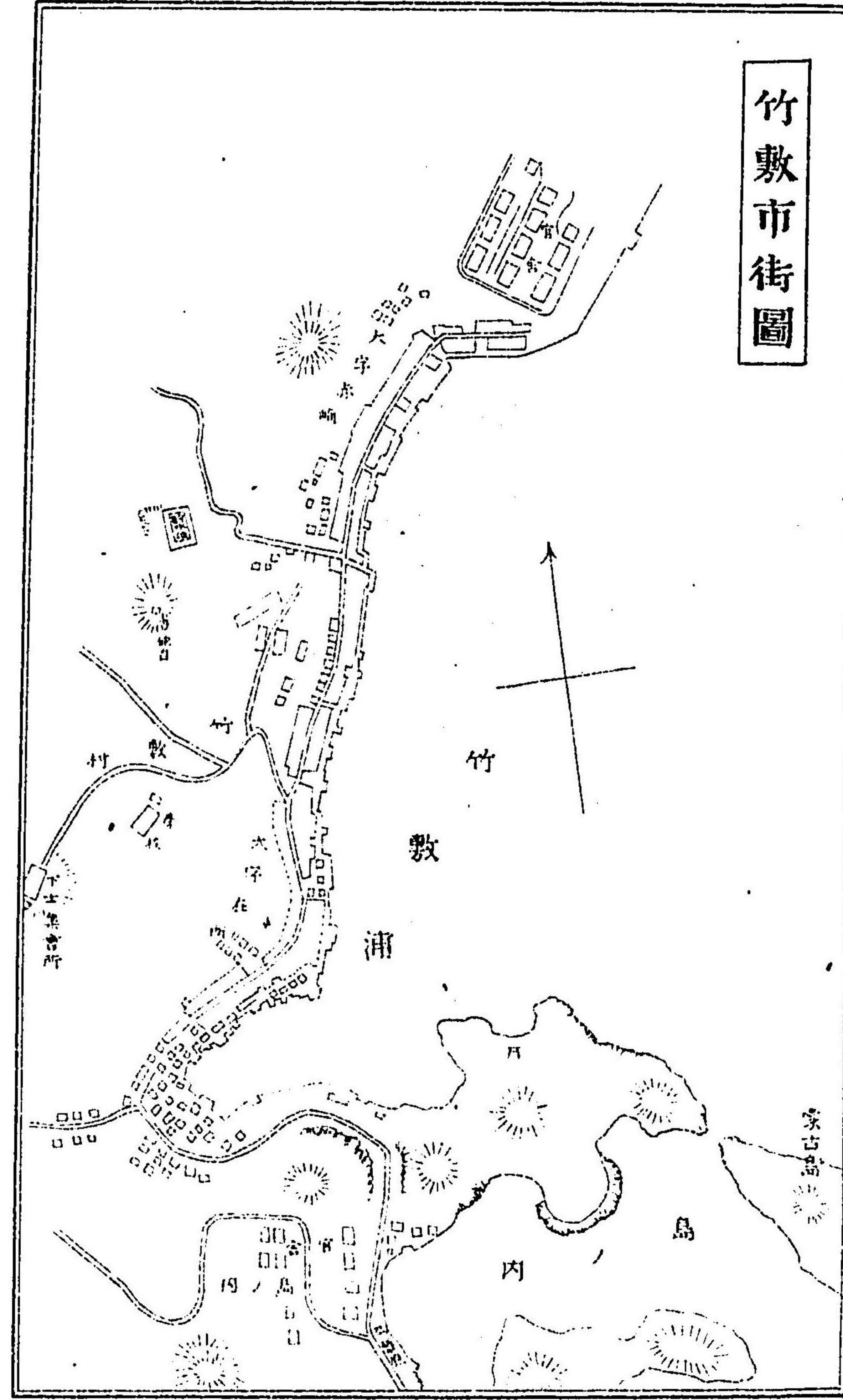
同郡木阪村に在り、國幣中社なり。祭神は豐玉姬命にして創建の年月未だ詳ならず。本殿拜殿等古色

嚴原市街圖



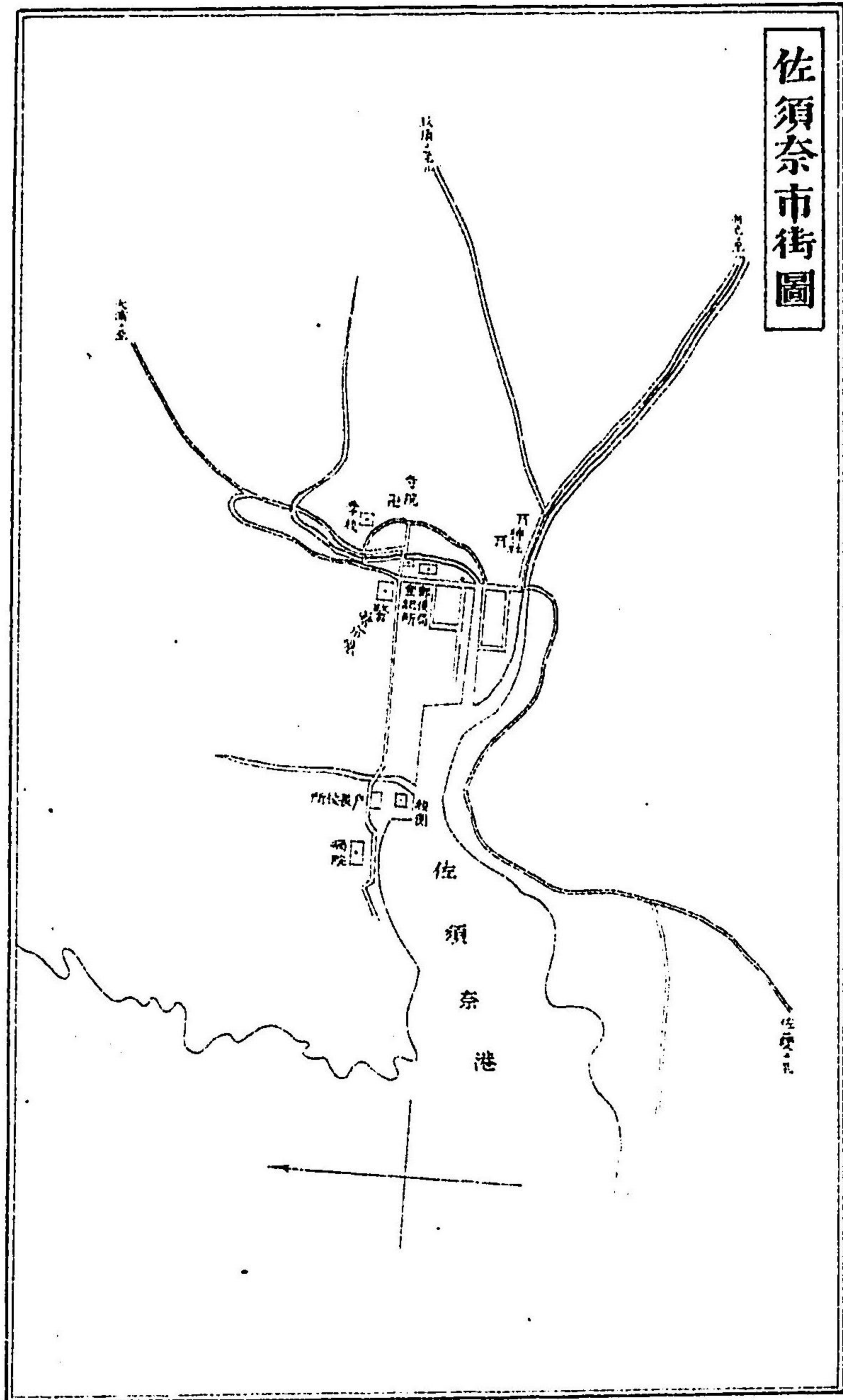


竹敷市街圖





佐須奈市街圖





蒼然たり。境内亦潔淨。本社の祭典は他に其類例なき古風を存せりといふ。

#### 巖原町

舊名府中、長崎⇨平戸⇨郷之浦⇨巖原⇨釜山航路の汽船及對州各港間の汽船常に輻輳して眞に良港なり。國分寺は禪宗にして天平年間の創建に係る。和多津見神社は白鳳六年の創建。祭神は底津綿津見命外四神を合祀せり。

#### 金石城址

天智天皇六年に築かる。城地は同村關野隈より里上を経て椎根村の古刀社山に至り、前郭の趾は城戸原より金田原に至る。弘仁年間國賊此城に據りて阿比留氏と戦ひし時、城壘多く崩る、慶安以來佐須板挾谷に銀を掘るに至りしより年々洪水ありて全く荒廢に歸せり。文永年間宗助國の賊船を斥候せし古跡今猶存す。元寇と戦ひしところは今の金田原なりと傳ふ。樫根村大字金田に在り。

#### 安徳天皇御陵墓傳説地

明治十六年山陵御見込地と定められてより、假に傳説地と稱せらるる古蹟にして郡中久根村に在り。御陵と稱せらるる丘は西南に向ひ、間口五間、奥行十二間、前方後圓の古陵墓形たり。御標石は細長き天然の石にして丘の中央に建てらる。高さ三尺ばかり碑面に文字なし、唯一面の茅野、二三十年にもならんかと思はるる松の點々として繁茂せるを見る。同所より三十間ばかりの、處に納言殿塚といへ



るものあり。左右は石垣にして正面三尺ばかりの平石を建つ。これ奉仕せし人々の古墳なりと傳ふ。其他犬塚、馬塚等あり。又村中に御所の跡あり。これ天皇の行在所なりし處なりとて今に里民の崇敬甚厚し。

小茂田濱神社

縣社、祭神對馬目代右馬允宗助國、傍に齋藤兵衛三郎資定外元寇の戦没者數十名を合祀せり。正平二十四年助國の曾孫刑部少輔經茂の創建する所なり。本殿は小茂田村海濱に在りて、其附近を佐須浦といふ。則文永十一年蒙古の來寇せる處なり。此地風景絶佳にして眺望に富み。晴天の際には遠く朝鮮の山色を望むべし。

長崎縣紀要終

明治四十年十月十九日印刷  
明治四十年十月二十一日發行

第二回關西九州府縣聯合水産共進會

長崎縣協賛會

東京市日本橋區數寄屋町一番地  
印刷者 田山宗堯



弊店にて販賣する

時計は日本全國

時計業聯合組合の責

任ある保險證を附し

萬一器械に

故障を生じたる

場合は最寄其地の

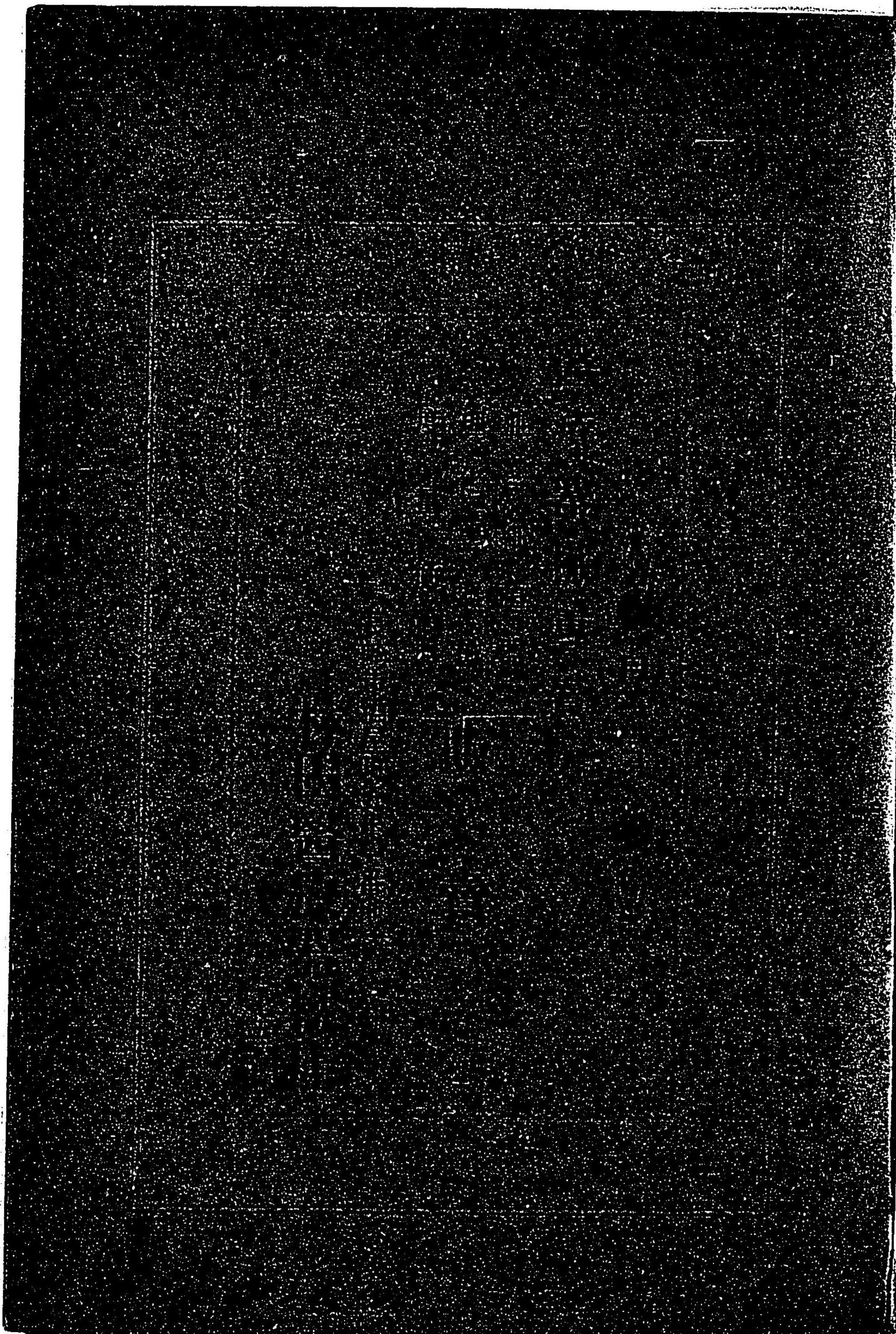
組合店に於て無代

價にて完全なる修

繕をなすの便宜あり







品用御省内宮

名譽  
金牌受領

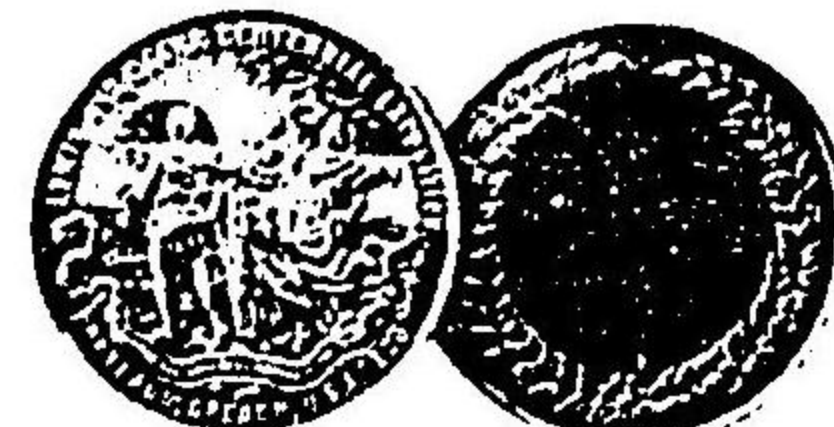
長崎縣  
特優産

GOLD MEDAL



MILAN

GOLD MEDAL



PORTLAND

SILVER MEDAL



SAINT LOUIS

賣販造製品術美甲籠



番八五四話電圈會商枝二町濱東市崎長  
(リア場列陳ニ上階)



宮內省御用品

長崎縣  
特優産

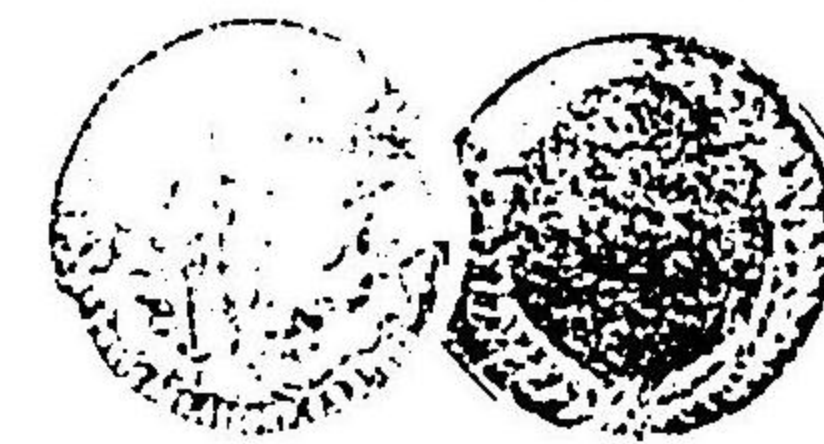
名譽  
金牌受領



GOLD MEDAL

GOLD MEDAL

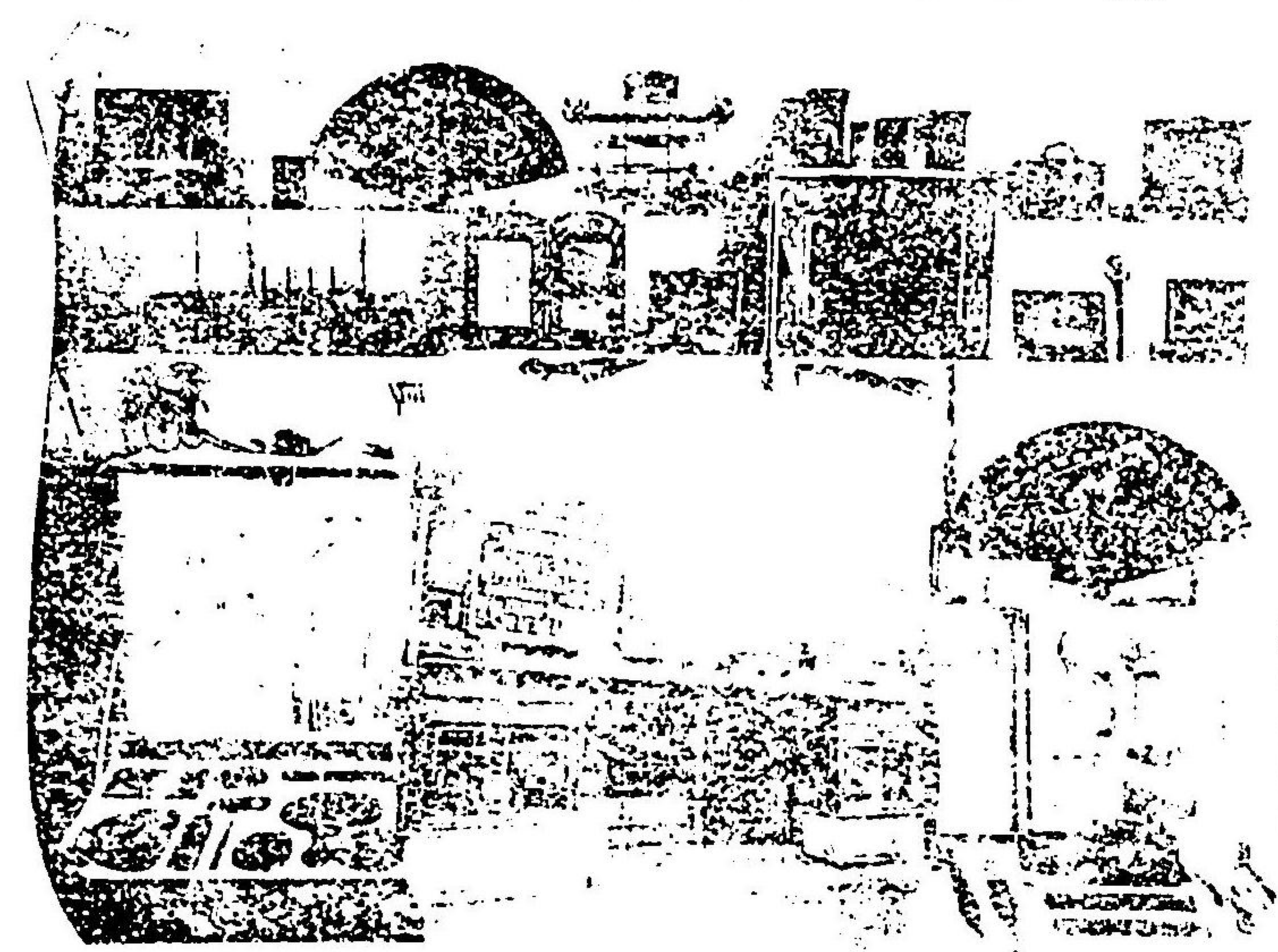
SILVER MEDAL



PORTLAND

SAINT LOUIS

龜甲美術品製造販賣



長崎市東區二丁目 枝商會 電話四八五番

醫療器械專賣

並 = 細菌器  
理 化學器械  
度 量 衡 器

販 賣



見

ヨ



長崎市酒屋町五十一番地

林田醫療器械店

電話(七五八番)



資本 金 (拂込額) 貳千四百萬圓

諸積立金 壹千五百五拾五萬圓

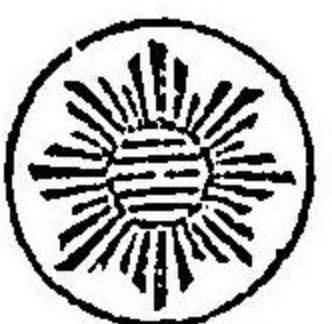
特別積立金 貳百五拾萬圓

一 定期預金 (六個月以上) 年利五分

一 當座預金 (當座) 日歩七厘

一 小當座預金 (當座) 日歩壹錢

明治四十年八月 日



橫濱正金銀行

長崎支店

長崎市梅香崎四番

電話 (長三六〇番) (長六三五番) (支那人用)

支店 出張所

東京 大阪 神戸 長崎 倫敦 里昂 紐育

桑港 布哇 孟買 香港 上海 漢口 芝罘

天津 北京 牛莊 旅順口 大連 遼陽

奉天 鐵嶺 安東縣 長春

有支店、出張所ノ外仍ホ内外權要ノ地ニ取引代理店有之候  
ニ付内、外國為替、荷為替、信用狀發行等、勿論内國手形割  
引貸付金等事、御便利ヲ主下ニ御相談可仕候ニ付御來談  
被下度候

拂込資本金 五百萬圓  
積立金 千參拾萬圓

長崎市西濱町七十二番戸

會社名 三井銀行

長崎支店



本支店所在地

東京、神戶、大阪、名古屋、京都、和歌山、廣島、  
東京、深川、神戶、橫濱、大津、  
門司、小倉、福岡、



發行者數縣下第一

THE NAGASAKISHIMPO.

# 長崎新報

電話番號五十九番

發行所 長崎新報社  
長崎市西濱町八十四番地

電信略號(シンホ)

本紙定價  
壹月 三錢  
三個月 九錢  
六個月 一圓六錢  
一年 三圓

廣告料價  
壹行九字 廿八錢  
壹行十字 卅二錢  
壹行十一字 卅六錢  
壹行十二字 卅九錢  
壹行十三字 卅九錢  
壹行十四字 卅九錢  
壹行十五字 卅九錢  
壹行十六字 卅九錢  
壹行十七字 卅九錢  
壹行十八字 卅九錢  
壹行十九字 卅九錢  
壹行二十字 卅九錢

廣告料價  
壹行九字 廿八錢  
壹行十字 卅二錢  
壹行十一字 卅六錢  
壹行十二字 卅九錢  
壹行十三字 卅九錢  
壹行十四字 卅九錢  
壹行十五字 卅九錢  
壹行十六字 卅九錢  
壹行十七字 卅九錢  
壹行十八字 卅九錢  
壹行十九字 卅九錢  
壹行二十字 卅九錢

廣告料價  
壹行九字 廿八錢  
壹行十字 卅二錢  
壹行十一字 卅六錢  
壹行十二字 卅九錢  
壹行十三字 卅九錢  
壹行十四字 卅九錢  
壹行十五字 卅九錢  
壹行十六字 卅九錢  
壹行十七字 卅九錢  
壹行十八字 卅九錢  
壹行十九字 卅九錢  
壹行二十字 卅九錢

防腐材

防腐劑

本社及  
工場ノ  
位置  
其他

- 最新ナル學理ヲ應用シ特許方法ニヨリ防腐劑ヲ注入シタルモノナリ
- 耐久年限拾年以上百年迄注文ニ應ジ防腐ス
- 自ラ木材ヲ防腐セントスル者ノ便ヲ計リ特許第八三五六號ノ木材防腐劑ヲ輸入及輸入トナシ販賣ス
- 壁板、圍板、船舶其他ニ塗刷スレハ防腐ノミナラス色合頗ル美觀アリ
- 本社 大阪市北區堂島濱通一丁目 電話東一七四番
- 大阪工場 大阪市安治川築港埋立地 電話西二八七番
- 東京工場 東京市深川區千田町 電話浪花三七八五番
- 會長 工學博士平賀義美專務取締役 法學士堀真技師 長林學博士志賀泰山

東洋木材防腐株式會社  
九州一手販賣店(長崎市大黒町)

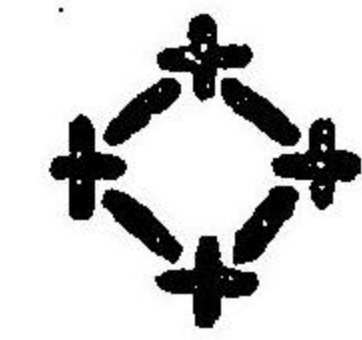


會社 長熊商會

特電九二七番



資本金參百萬圓



株式會社

十銀行

龍山出張所	羅州出張所	群山支店	木浦支店	元山支店	釜山支店	仁川支店	京城支店	武生出張所	福江出張所	嚴原支店	佐世保支店	熊本支店	大阪西支店	大阪支店	本店
同龍山	同羅州	同群山	同木浦	同元山	同釜山	同仁川	同京城	同武生	同福江	同嚴原	同佐世保	同熊本	同大阪西	同大阪	同本店
								同壹岐郡武生水村	同南松浦郡福江村	長崎縣下縣郡嚴原大手橋町	佐世保市松浦町	熊本市米屋町一丁目	同西區南堀江通三丁目	大阪市東區大川町	長崎市築町

資本金拾萬圓



株式會社

長崎貯蓄銀行

木浦	韓國京城	嚴原	代理店所在地左ノ如シ	坪井支店	熊本支店	大浦支店	本店
群山	仁川	佐世保		同	熊本市米屋町一丁目	同	長崎市築町
羅州	釜山	福江		上林町		大浦	
龍山	元山	武生水					

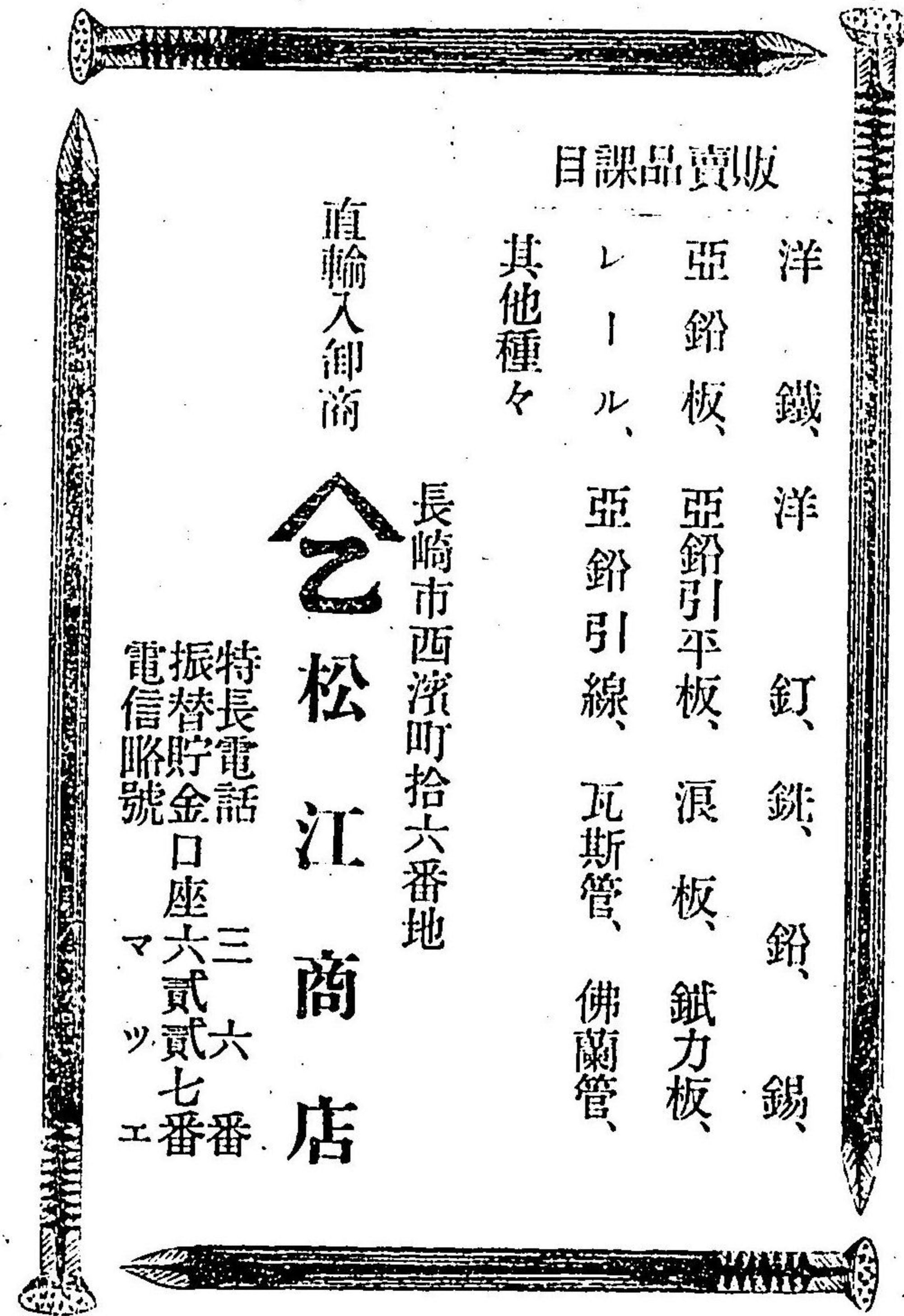


販賣品目  
 洋鐵 洋釘 銑鉛 錫  
 亞鉛板 亞鉛引平板 浪板 鋸力板  
 レール、亞鉛引線 瓦斯管 佛蘭管  
 其他種々

直輸入卸商

長崎市西濱町拾六番地  
**松江商店**

特長電話 三六六番  
 振替貯金口座 六貳七番  
 電信略號 マツエ



長崎市酒屋町角  
 内外書籍  
 和洋文具類  
 樂器運動具  
**虎與號書籍店**  
 長電話二五六番

同町中通リ  
 東京小間物  
 傘下駄化粧品  
**虎與號小間物店**

同町本通リ  
 東京諸新聞  
 九州諸新聞  
**虎與號新聞店**

圖書專賣  
 和漢洋教科學  
**集樂堂**  
 長崎吉原町  
 雜誌類 取次所  
 大坂 每日新聞  
 雜誌類 取次所  
 大坂 每日電報  
 雜誌類 取次所



# 商標 分

長崎市浦五島町

**松本石油部**

電話特長(二〇四番) 電信略語(ヤマカ)

朝鮮元山津

**同元山支店**

電話(二五〇番)

同釜山辨天町

**同釜山支店**

電話(一三六番)

門司市祝町二丁目(門司支店)

**松本鑛油部**

電話(一五九番)

## 諸器械電氣商 今井平三郎商店

### 營業目錄

- 東京秋月製アイデル精米機及元動機附屬品一切
  - 橫濱會我商會一手輸入米國最新式粉未機特約
  - 英國ニ於テ最モ流行スル木造調車取付テ御高覽ニ供シマス
  - 英國最新式冷鋼引枝シヤフト四分ヨリ三吋半迄
  - 電氣器械ハ殊ニ新案ヲ以テ設計製作中メツキ用モーターハ既ニ二臺  
店頭ニアリ設計製作一切ヲ受負尤モ迅速勉強致シマス
  - 黒ボテ 天然ガス 器械捻等ハ多數持チ合セ居候
- 弊店ノ特長ハ賣込タル凡テノ器械ヲ店主二十ヶ年ノ經驗ヲ以テ  
充分ナル責任ヲ負ヒ活動サスルニアリ組立等ニハ實費ニテ技手  
職工ヲ供給スルコトヲ受負フニアリ時津ノ益示麥粉機械場玉江  
橋側東洋火灰會社ノ工事ハ其理想ヲ實行セリ御一覽ヲ乞フ

長崎市樺島町七十八番地



米穀肥料  
委託賣買  
河屋

貿易商

長崎市西渡町  
島田本店  
長電話八七九  
電略シマタ



各種色油  
蠟燭  
食塩  
卸賣

内科石油商

長崎市西渡町  
島田支店  
長電話八七九  
電略シマタ



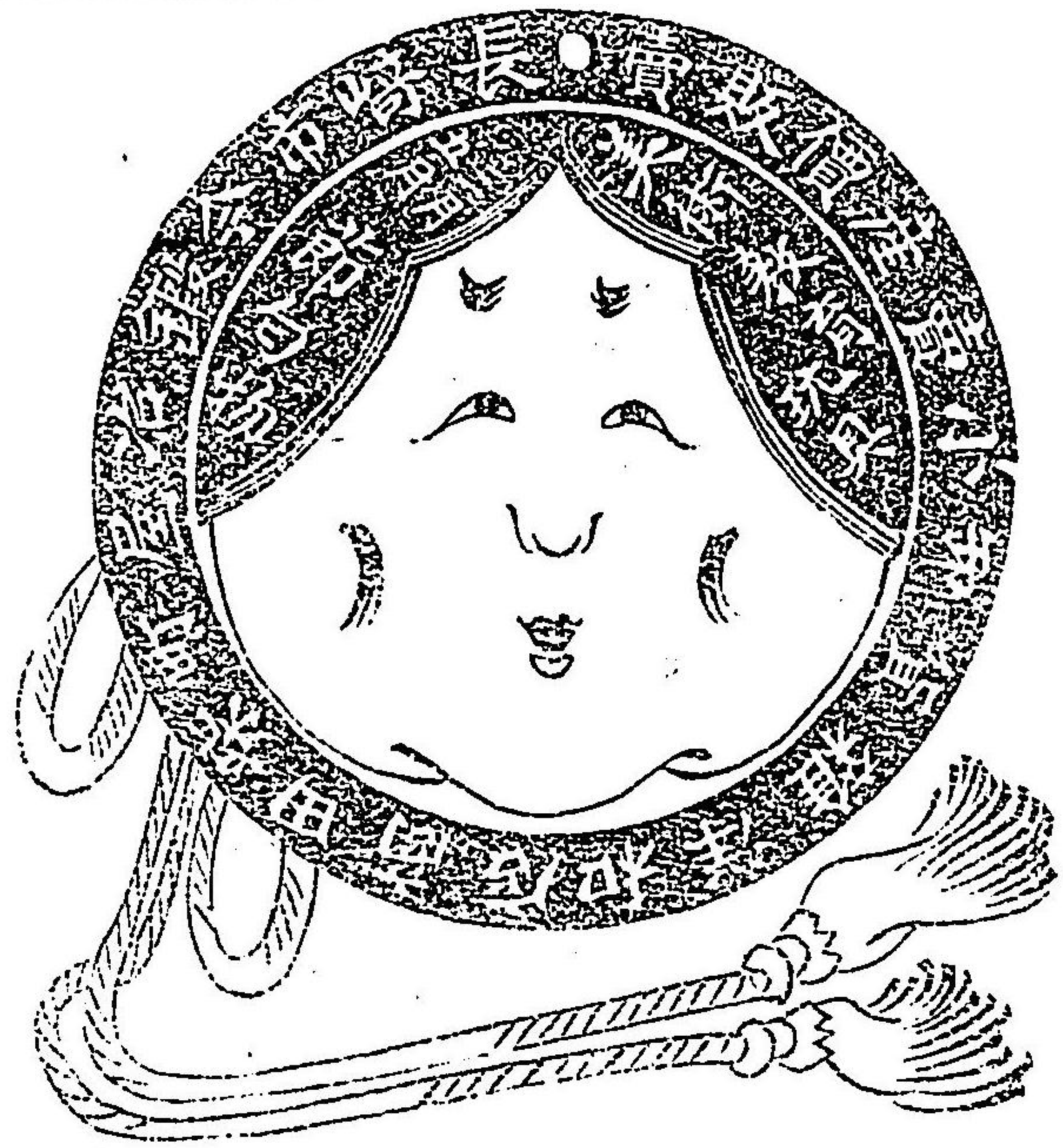

肥塚與八郎

本支支支支  
店店店店店  
造造造造造  
場場場場場

長崎市本五島町  
長崎市築町  
堺市熊野西一丁  
佐世保市濱田町  
大連市大通リ二丁目  
堺市熊野西一丁  
堺市熊野東一丁  
攝津灘御影町  
攝津灘魚崎  
長崎横道



福柴田商店



御旅館 土佐屋

長崎本博多町三四番地

特電話八六三

一四

洋食 洋食 洋菓子 洋菓類  
酒品 料理 菓子 菓類  
直輸入 販賣

長崎市  
梅香崎十番

杉山商會

(電話四〇番)

一五



和活版印刷

●長崎最古の活版印刷工場也  
●長崎最古の和洋帳簿製造所也  
●長崎第一器械の完備したる工場也  
●長崎第一の確實なる工場也  
●價格の低廉なる長崎無比也  
●取扱の丁寧なる長崎無比也

重誠舎

長崎市今鍛冶屋町

重誠舎

和洋文房具雜貨

内外書籍並ニ雜誌

運動用具各種

ヴァイオリン手風琴

眼鏡類各種

長崎市勝山町廿九番地 御小賣 松崎商店

同 町廿八番地 電話六六一番 松崎書籍部

同 町廿六番地 松崎支店

眺望絶佳

長崎市大徳寺下

高等御旅館

一〇二樓

電話(七五九番)

親切丁寧

大波戸海岸ヨリ八丁

長崎停車場ヨリ十一丁



日本郵船株式會社  
大阪商船株式會社  
內 外 各 汽 船  
貨 物 取 扱 所

本店

長崎市 樺島町  
大阪商船會社支店隣

電話(長)一五五番  
電掛(略號)タケイ

支店

長崎市 玉江町海岸  
大波 戸 棧橋前

旅 館 長 崎 竹 井 屋

隣店ノ特色  
壹等(貳圓廿錢)ヨリ等外(六拾錢)  
迄七等ニ別テ定價表ヲ示シ御指命  
ヲ仰キ候ニ付始メテノ御客様モ  
更ニ御不安ノ念無之候

宿泊料

取扱

懇切丁寧ヲ主トシ聊モ御遺憾無  
之様萬事注意仕候

食事

生釋ノ長崎料理及ヒ洋食ヲ調  
進仕候

便利

波戸場并ニ棧橋ノ最近ノ場  
所ニ付船客上陸乗船ニハ  
長崎港中唯一ニ有之又停  
車場ヲ距ル僅三四丁ニ付  
發着ニハ最御便利ニ候

長崎市本籠町

爲政寫眞館

電話(七)三三七

長崎市油屋町

高等御旅館

寶 家

特電一四四番



長崎市今魚町角電七二七番  
 諸官衙御用達  
**丸勢商店**  
 ▲椅子卓子戸棚書籍箱類  
 ▲窓掛日除敷物卓子掛類  
 ▲診察治療藥局用器具類  
 ▲應接室事務室室內裝飾  
 ▲右廉價ニテ調製可仕候

---

▲長崎名所系はがき  
 弊店發行品七十餘有升 壹打 參拾錢  
 遞信省及 紀念系はがき  
 各官省發行 各種取揃發賣ス紀念スタンド付  
 ▲長崎藝妓美人系はがき  
 人氣當選 上等プロマイド各種 壹枚 拾五錢  
 歐米各國美術繪葉書發賣所  
 長崎市船大工町 七番地 **中原商店**  
 水産共進會場前 長崎市賣店部内 **中原出張店**

本場元祖  
 加壽天以羅  
 罐詰カステラ  
 第五回國勸業博覽會  
 壹等賞牌受領  
 聖路易萬國大博覽會  
 名譽大賞受領  
 長崎市本大町五  
 松翁軒謹製  
 電話四百拾番



帝 國 宮 內 省 御 用 達

髓 甲 美 術 品 製 作 販 賣

御 束 髮 用 一 品 及 式 粧 飾 品 其 他

米 國 聖 路 易 萬 國 博 覽 會 = 於 テ

最 高 名 譽 大 賞 牌 受 領

露 國 聖 彼 得 堡 博 覽 會 = 於 テ

名 譽 大 賞 牌 受 領

內 外 博 覽 會 = 於 於 金 銀 賞 牌 十 種 受 領 七

長 崎 市 今 魚 町 五 十 七 番

江 崎 榮 造

電 話 三 二 八

英米獨濠各製造元直輸入營業品目

一 諸 機 械 類 一 切  
一 鐵 鋼 類 及 金 屬 類 一 切  
一 船 用 具 類 一 切  
一 英 國 製 自 轉 車 及 自 動 車  
一 米 國 麥 粉  
一 其 他 舶 來 雜 貨 各 種  
一 塗 油 類 一 切  
一 骸 炭 肥 料 類  
一 蓄 音 器 各 種  
一 右 製 造 所 元 價 證 明 其 的 儘 以 於 僅 少 の 手 數 料 を 申 受 け 本 社 同 様 の 價 格 を 以 て 御 注 文 取 扱 申 上 候

神 戶 市 明 石 町 三 十 九 番  
株 式 會 社 テーラー  
商 會 本 店  
橫 濱 市 山 下 町 百 五 十 三 番  
支 店

九 州 及 韓 國 總 代 理 店

荷 受 問 屋

長 崎 市 櫻 津 町 四 十 一 番 地  
宮 川 忠 三 郎 商 店  
特 電 話 (二 三 番)



長崎港川副三製品

巴里萬國大博覽會金牌受領

母請食卓鹽

細末磯の露

衛生必適紫蘇鹽

第五回勸業博覽會銀牌受領

長崎市西濱町六十七番地

製造發賣元 川副龍平

各種時計  
貴金屬製品  
蓄音器

長崎市本館町五〇  
浦津本店

電話二九九番



三五



直輸毛織物商

高等洋服調進

長崎市本館町三五番

杉浦羅紗店

長電電話二八二番

二四



砂糖洋酒  
類雜詰並に  
洋菓子商

長崎市大黒町停車場通り  
四ツ角

貞住本店

御旅館

長崎停車場前東角

同支店 住家

太物洋反物卸商

長崎市本紺屋町四十四番地



和泉嘉七

長電話(七四七番)

手拭足袋メリヤス  
タチル。ハンカチーフ 御商

長崎市本紺屋町一番地

和泉支店



長崎最古の鰻屋開  
店後已ニ六十餘年  
熟練なる調理人  
名本店の特得の調  
最優の美味は幾多  
顧客の熟知せらる  
る所

長崎市引地町

鰻蒲焼  
専門

泉屋

長電話(三三三番)

和洋酒瓶詰  
食料品罐詰

商 不 飯 田 商店

長崎市本下町本通り

長電話(八一八番)



西 洋 料 理

長崎西濱町六十八番地

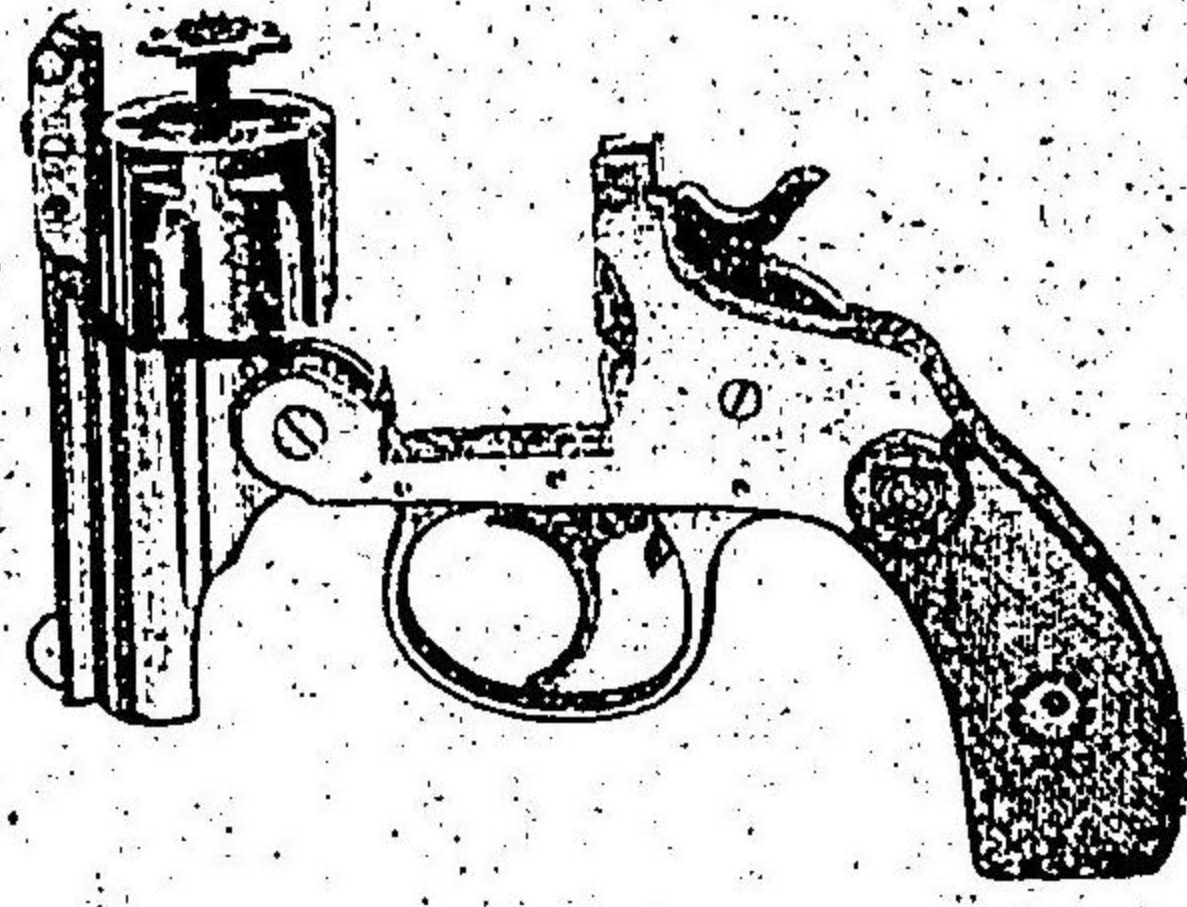
精 洋 亭

長電話八五七番

長崎  
市

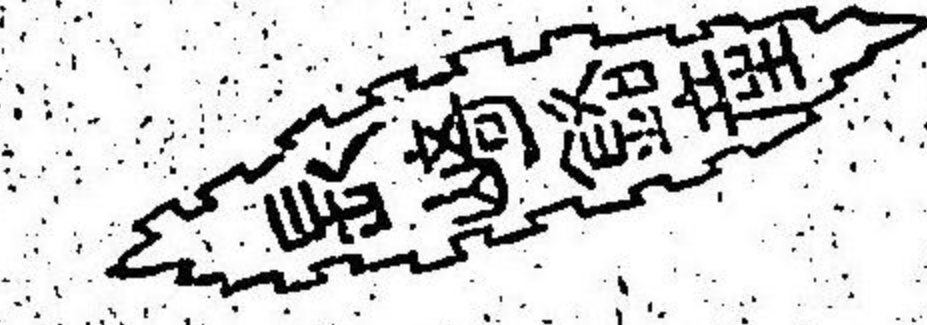
小島銃砲店

長電  
三番



内外各種銃拳銃新式  
種々獵具品色々火藥  
イナマイト勉強販賣仕候

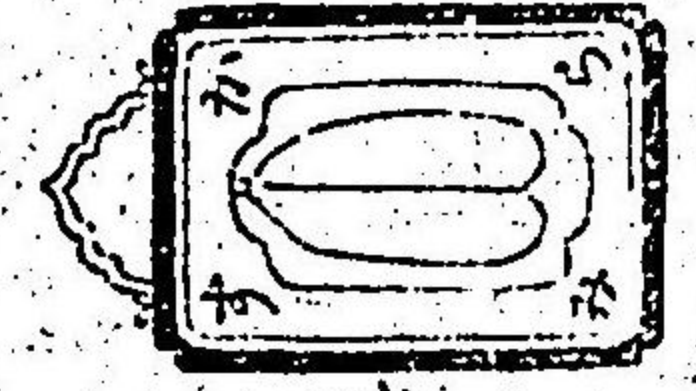
注 意 注 意



厨 内 省 御 用 品



會社博覧會勳功内回三第  
牌賞功有等  
會社博覧會勳功内回二第  
牌賞功有等



商 標



會社博覧會勳功内回五第  
牌賞功有等  
會社博覧會勳功内回四第  
牌賞功有等

長崎市本町下  
からすみや

高野 作 實



長電話一七八番

◎其他の店から類一切一手販賣所



海運業 貿易商  
移民乗船周旋業  
チャンピオン消火器代理店  
東洋生命保險會社代理店

長崎市江戸町七五

### 原口商會

電話長距離(八四〇番)

三〇

長崎市東濱町五番地 電話乙(五〇七)  
鰻蒲焼専門 **青柳亭**  
長崎市本石灰町二十八番地 電話甲(五〇七)  
**御待合** 青柳亭事 **浦島**

長崎市江戸町拾壹番地  
貿易商 **城島勝助**  
電話(五二五番)  
電信略號(シヨシマ)

**寫真師**  
長崎市本古川町九番地  
**清河寫真館**

塗物錫器箆筒並ニ  
嫁入道具一式  
唐木細工物荒物類  
御小賣

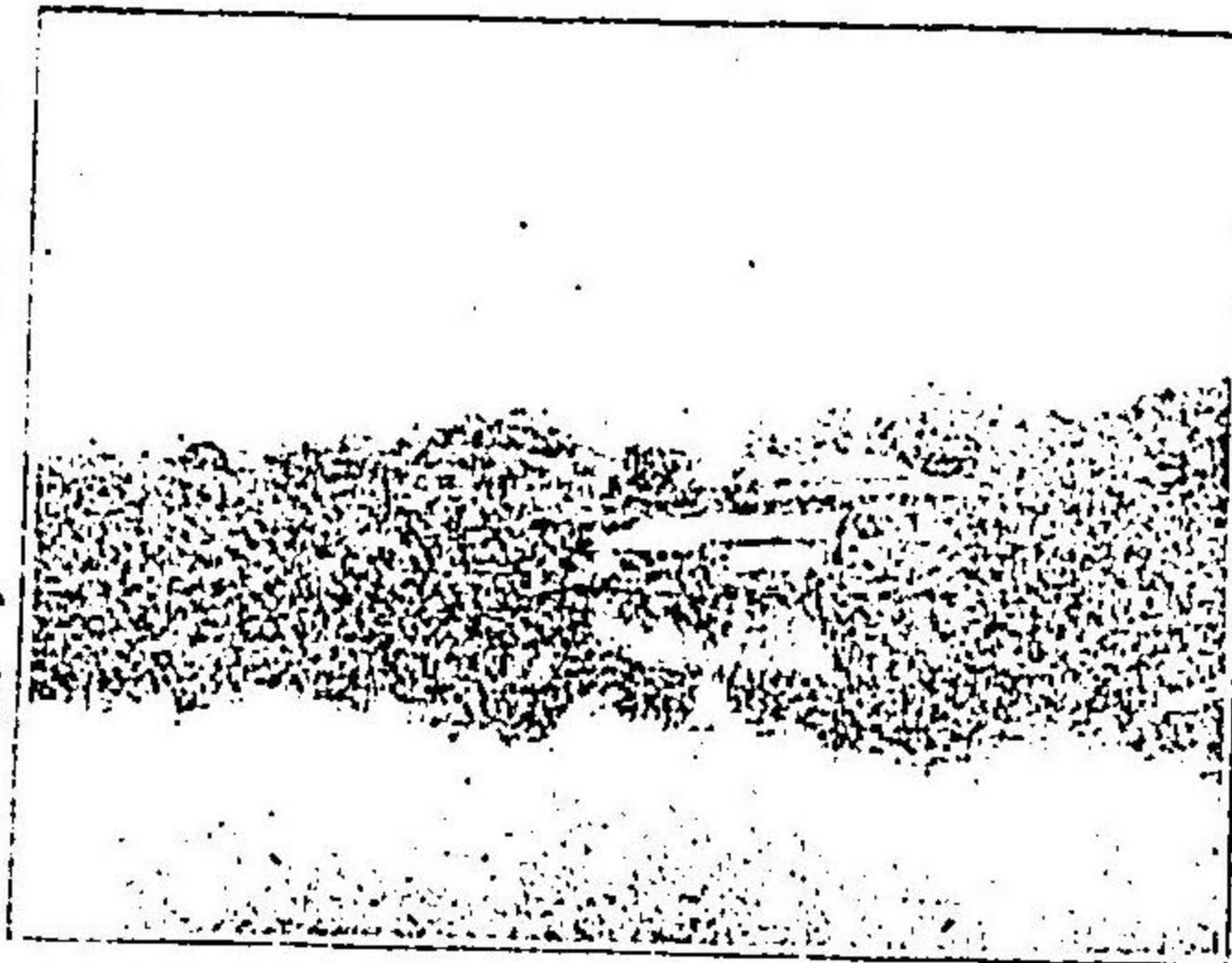
長崎市今鍛冶屋町  
**桑野家具店**  
電話(二七〇番)

三一

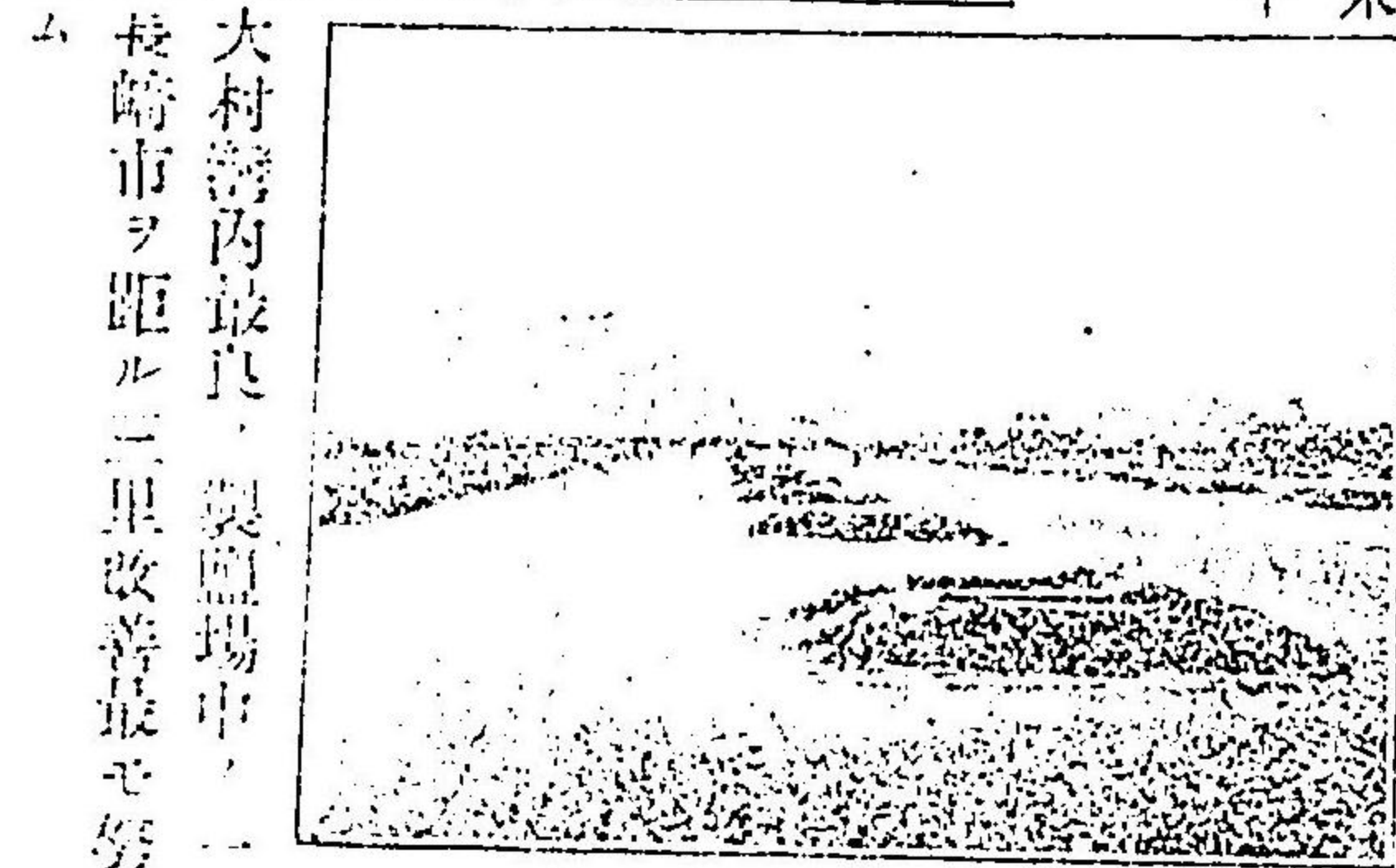


酒 卸 商

長崎縣時津萬屋本店

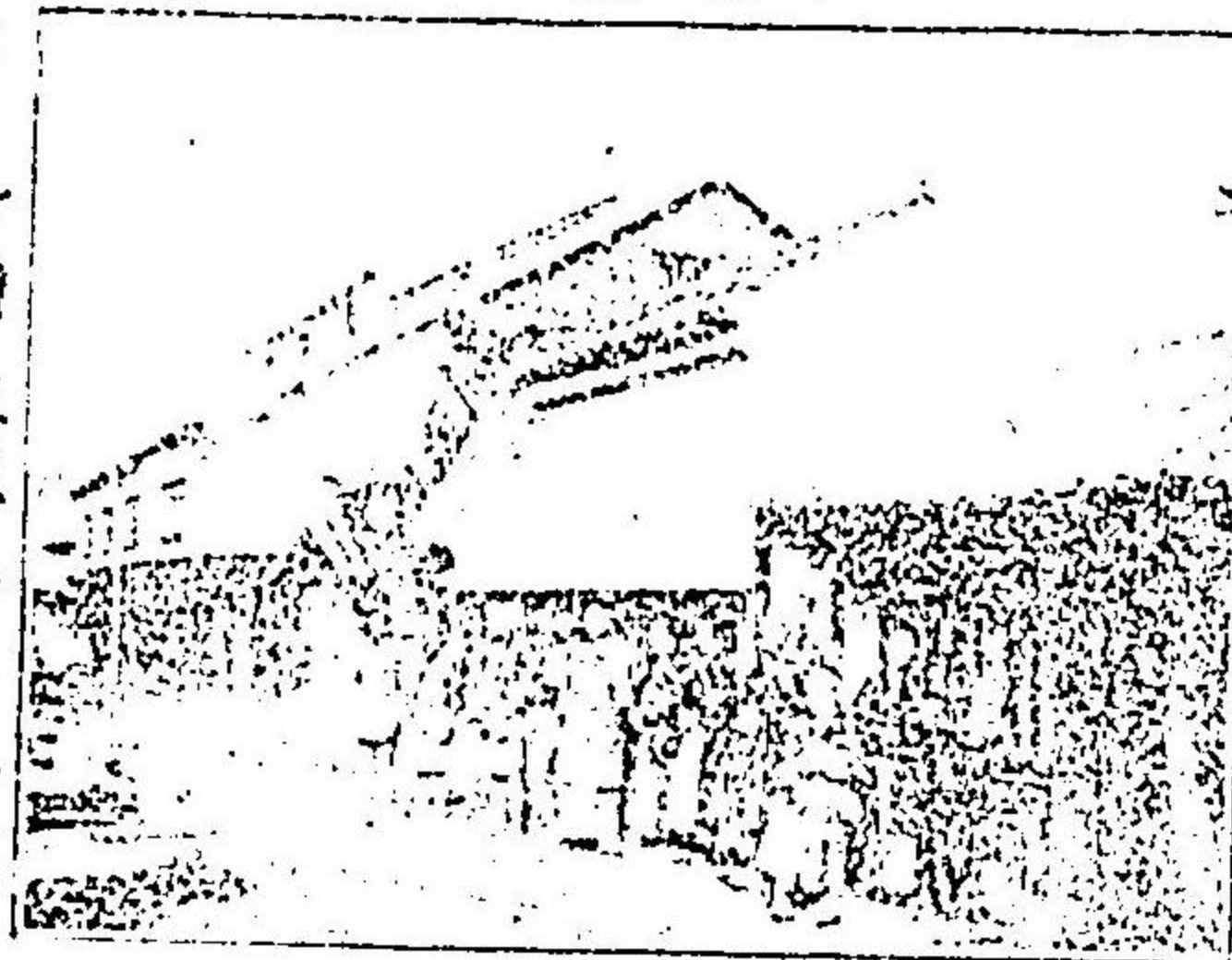


琴湖灣内真珠産出第一ノ處ニ  
シテ水深ク清キ穩ナル海岸米  
産地ニ在リ三斗五升入白五十  
個悉皆鐵機械  
(水力精製所)



大村灣内最良ノ製鹽場中ニ  
長崎市ヲ距ル二里改善最モ努  
ム

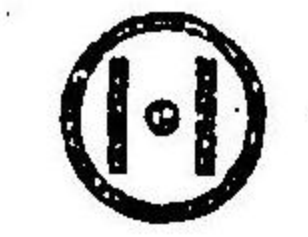
(酒造鐵酒清)



長崎市萬屋町萬屋支店  
長電五國六

(二番濱製鹽場)

長崎最近ノ釀造場  
飲料物精製法ノ應用々々  
別燒酎 奈良漬  
特別ノ風味ヲ以テ名々



本日罐詰元祖

本社

分工場

見

合名  
會社

松田罐詰製造所

當會社の製造する罐詰は故松田雅典翁が多年  
の工夫經驗に成りたる日本罐詰の元祖なり  
製造の良好なることは最も世人の信用する所  
なり御食用旅行携帶又は御進物用として多少  
に不限御購求を乞ふ!!!

長崎市夫婦川百番地

廣島市西本川神崎

支店 販賣所  
赤瀬町 事務取扱  
長崎市 津島  
支店 十四番地



志

ガラス板 鏡板 直輸入 鏡

志

長崎市江戸町三番地

志賀兄弟商會

長(一〇四番)

志

志

厚板 ガラス類 直輸入 商

長崎市江戸町(川野屋)  
川添商店

(電話五四七番)

海運業  
代理業

長崎市江戸町

江口商店

(電話八一五番)



貿易商荷受問屋  
 千代田生命相互保  
 險會社長崎代理店  
 攝津製油株式會  
 社印肥料長崎  
 縣下一手大販賣  
 代理店



長崎市權島町四十二番地  
**松本庫治**

電信略號(〇マ)  
 特電話(二〇六番)

貿易商  
 內米穀肥料  
 外米穀肥料  
 炭木材輸出



長崎市浦五島町三十二番地  
**前川商店**

長電話七五四番  
 電略號(マエ)

營業主目  
 內外米大豆  
 種竹干其他雜  
 棉粕海大干豆  
 產物

委託賣買業



長崎市本五島町二六  
**小倉吉之助商店**

特電話九七四  
 電信略號(オ)オクシ



余



品質精選且豊富  
準備シ價格低廉  
旨トシ御願可申上  
候

長崎市大黒町  
**山熊吳服店**  
(停車場ヨリ南東丁  
電話特五七七)

三八

汽船元業  
海運業

長崎市築町新波止

**江下回漕店**  
(特電話八〇三番)

織物御商  
登錄商人染發賣元  
長崎市本紺屋町

△金鱗西澤

---

タリヤス製造販賣業  
大阪市南本町四丁目

△金鱗西澤

三九



長崎

和洋反物綿子ルー卸商

本古川町二十二番

西澤伊三郎商店

かすていら

畏れ多くも

東宮殿下御買上に相成

たる名譽かすていら

長崎市出来かじや町

菓子商 白水喜八

九州唯一の名譽洋服裁縫店

弊店は

畏れ多くも去る三十五年四月中 小松宮殿下の御召服スモークキング及び夏服新調の御下命を蒙り謹で御用達申上たるに其の迅速と御召工合の善きとを特に御賞賛の光榮を辱うす

長崎市今かじや町四十一番地

洋服裁縫業 酒井洋服店

電話 (八四五)





貴婦人用具一式  
 時計類  
 同附品類  
 手鉤類  
 長崎市本館町  
 栄岐商店  
 長電話(八〇二)  
 金銀盃類  
 茶器類  
 メタール類  
 其他應貴需

長崎市今鍛冶屋町  
 副島繪葉書店  
 長崎市本石炭町  
 繪はがき専門問屋  
 桔梗屋繪葉書店



井のうめびき

各博覽會ニテ銀牌銅牌數個受領ス

製造元 井上彌作  
 長崎市本石炭町

米穀肥料  
 海産木材  
 賣買問屋

長崎市西濱町十九番地  
 商號大鶴商店事

② 外國貿易商 中島榮三

特電話六六三番  
 發電略號(マ)



各國産紙  
燐寸字類  
**卸商**

長崎市西濱町二十番地

**木村幸吉**

發電略號(キヨ)

**外國貿易商**

米穀肥料  
**委託賣買問屋**

臺灣米肥前白米清國産

肥料類一切外國米

大販賣

長崎市西濱町四十二番

**千々岩愛吉**

電信略號(チア)

長電話七百六十二番

**汽船元扱  
海運業**

長崎市西濱町新波止



**筑紫回漕店**

特電話(二百十九番)

頭のてつべんから足の爪先  
長崎市東濱町  
**廣瀬博産場**  
電話番號(九〇四)  
まで必要品何でもあります



薩摩燒  
製造業

**長州商會**



歐米文房具  
諸紙諸帳簿

長崎市東濱町



石丸文行堂

特電(六百〇一番)

海陸物産貿易商  
樟腦製造

長崎市銅座町

佐野屋中村佐八郎

電話(二九二)  
電信略號(カネサ)

海運業兼  
貿易商

本店

長崎市江戸町

喜久屋商會

電話 特長六三〇番  
長三三〇番

木材石炭木炭

營口南本街四丁目

喜久洋行

電話三一四番

雜貨販賣

安東縣吾妻橋通

喜久旅館

電話一〇四番

高等旅館

韓國惠山鎮

喜久ホテル

高等旅館





酒類卸賣商  
 長崎袋町  
**田中屋本店**  
 特電二六五番



**貿易商**

砂糖 石油 麥粉  
 肥料 穀類 棉花

長崎市浦五島町廿一番地  
 入來屋商店事

Ⓐ **脇山啓次郎**

電略(ナリ)又(ハ(半))  
 電話(長) 二一五番  
 振替貯金 一二四番



長崎市本石灰町

**山口洋酒店**

電話四二四  
 振替貯金八六〇七

國酒業  
 龍旅館

長崎市江戸町

Ⓐ **清島支店**

長電話(五四三)

五島臨江酒屋町

Ⓐ **清島本店**





酒類卸賣商  
 長崎袋町  
 田中屋本店  
 特電二六五番



貿易商

砂糖 石油 麥粉  
 肥料 穀類 棉花

長崎市浦五島町廿一番地  
 入來屋商店事

脇山啓次郎

電略(ナリ)又ハ(ナ)  
 電話(長) 二一五番  
 振替貯金 一二四番



長崎市本石灰町

山口洋酒店

電話四二四  
 振替貯金八六〇七

同漕業  
 並旅館

長崎市江戸町

清島支店

長電話(五四三)

五島福江酒屋町

清島本店



### 外國貿易商

米穀  
料 委托賣買問屋

臺灣米肥前白米清國產

肥料類一切外國米大販賣

長崎市樺島町

## 菊池商店

長電話(三一〇番)

### 內外米穀肥料商

并ニ  
海陸諸物產委托賣買

多木肥料一手販賣

長崎市樺島町

## 大 肥塚分店

長電話 十九番

電略(コエ)又(ハ)三

漁業大福音  
石油瓦斯火機ノ最光發明

製造販賣元  
長崎今分町二拾八番  
大坪鐵所



營業種目

機械製氷販賣  
 ラムネ及炭酸  
 氷製造販賣業  
 各種硝子品類  
 一式製造販賣

長崎市西濱町五十六番地

長崎製氷株式會社

特電(二三〇番)

長崎市西濱町六十七番地

同 硝子部

佐世保市松浦町二十三番地

同 佐世保支店

電話(四九番)

吳服太物卸商

榎津町

全上河源右衛門

(電話三四二番)

長崎市堀町貳拾番戶

洋式帳簿製造  
 併に活版印刷

長崎帳簿製造所

電話(四七六番)



明治卅六年九月十五日  
專賣特許第六五七一號

### 一漁業簿

### 定價

八斗入 百貳拾圓  
五斗入 百圓

本器ハ專ラ鰯漁獵ニ使用スルモノニシテ抑モ本器ノ研究ハ去ル明治二十八年ノ創始ニシテ其際ハ試驗用器ノ不完全ナル所ヨリ容易ナラサル過失ヲ生シ一時其研究ヲ中止セサルノ止ムナキニ至レリ然ルニ明治卅一年頃大坪芳太郎ナルモノ巾着網用鰯ノ製造ヲ依頼セリ談偶々鰯漁獵用簿火ノコトニ及ヒ之カ研究ヲ續行セラレントヲ懇請セリ爾來大ニ苦心研磨或ハ蹉跌ノ災厄ニ遭遇セシコト數回ニ及ヒタルモ終ニ宿志ヲ遂ケ前記ノ日附ヲ以テ專賣特許ノ登錄ヲ受クルニ至レリ然ルニ其筋ヘ特許出願ノ際ニ方リ販路上ノ點ヨリ大坪ノ請求ニ依リ特ニ大坪ヲ以テ特許證主トナシタルモノナリ故ヲ以テ小生ハ生來ノ鐵工業者ナレハ汎ク漁業者ニ知名ノモノ少ナキ點ヨリ專ラ一手ニ製造ヲ司トリ及ヒ販賣ノ權利ヲ獲得スルヲ得爾來專ラ之カ製作販賣ニ從事シ以テ今ニ至レリ而シテ今ヤ其製造發賣セシ數ハ年其數ヲ増シ又漁業者ニ於テモ本器ヲ使用セサレハ出漁ヲ層シトセス、近縣ニ於テハ各漁業者ニ於テ木村製ニアラサレハ殆ント其用ヲ爲サ、ル者ノ如ク偶々他ノ製作器械ヲ購入セシモノアルモ多クハ粗製亂造ノ爲メニ殆ント其用ヲ爲サ、ル者ノ如ク偶々他ノ製作器械ヲ購入セシモノアルモ多クハ粗製亂造ノ爲メニ殆ント其用ヲ爲サ、ル者ノ如ク偶々他ノ製作器械セシモノ多クアリ又以テ名譽ト云フヘシ斯ノ如ク漁業界ノ高評ヲ博シタル上ハ小生ノ責任モ亦重且ツ大ナリ故ヲ以テ此ノ好評ノ萬分ノ一ヲ報セン爲メ將來益々業務ヲ擴張シ精製ヲ旨トシ斯業者ノ便利ヲ圖ランコトヲ期ス乞フ一臺ヲ求メ多大ノ收益ヲ揚ケラレントヲ

長崎市萬屋町百三番地

明治四十年十月

一手製造販賣元

木村安太郎

長崎市古河町三十四番地

船舶修繕請負業 藤原作太郎

長崎市入江町五、六番地

長崎市水道水一手販賣 原田保次

營業事務所

電話 二五七  
九七三



長崎八景之晴嵐地  
 山水風月秀美清雅港內全景眺望絕佳



富貴樓全景

御料理樓  
 長崎西市山松ノ森  
 富貴樓

長電話(二五三番)

御料理會席

市內ニ於テ最モ眺望ニ富ム今回新設ノ樓上ハ對岸三菱  
 造船所ヨリ遠ク女神病院ヲ望ミ港内ノ全景宛然手ニ取  
 ル如ク夜間ノ景亦一入ノ眺ナリ  
 弊亭ノ特色ハ諸事丁寧親切ヲ旨トシ可及の大勉強ヲ以  
 テ各位永遠ノ御愛顧ヲ蒙ルヲ以テ專一トス

長崎市今町五十九番地

御料理會席 津多屋

電話(二九三番)



業開間年化文

# 御料理

町後筑上市崎長

## 迎陽亭

(番六五話電長)

### 清國並ニ浦汐各地輸出入貿易商

輸入肥料雜穀綿花其他貨物  
輸出米穀陶器麵類磚茶海產物其他雜貨

長崎市新地十番地特電話(四五四番)

### 貿易商福興號黃聰明

### 清國ホテル

支那料理壹人前五拾錢以上貳圓  
壹草八人附拾貳圓ヨリ拾四圓  
宿泊料壹圓ヨリ貳圓  
以上内外諸彦ノ望ニ應ヌ

長崎市新地七番地特電話(四五四番)

### 福昇棧主黃聰明



清國輸出入貿易商

一輸入ノ部肥料雜穀棉花豆類其他ノ貨物

一輸出ノ部水產物一切米穀東洋紙其他陸產物一切

長崎市新地三十番地

貿易商 振成號 徐文泉

特電話(四五五番)

清國並三浦汐臺灣朝鮮貿易商

一輸入ノ部米穀棉花肥料豆類其他雜貨一切

一輸出ノ部米穀陶器麵類打綿東洋紙陸海產物一切

長崎市新地二十九番地

和昌號 梁肇三

特電話(七六三番)

御料理

風景佳絕

料理新鮮

長崎市小島

寶亭

電話(一四三番)

元祖 西洋料理

眺望佳絕

原料新鮮

長崎市丸山町上

福屋

特電話(三〇番)



精巧  
妙技

# 美術寫真

町工大船市崎長  
館真寫崎宮

●美味新鮮●

御料理

●親切丁寧●

長崎丸山町

## 鹿島屋

電話(四二二番)





⊕

長崎市大村町  
**福島屋旅館**  
長距離電話(二六〇番)

長崎市江戸町  
**福島屋回漕部**  
長距離電話(五三三番)

**御料理**

町袋市崎長

**亭樂共**

(番二四一)話電



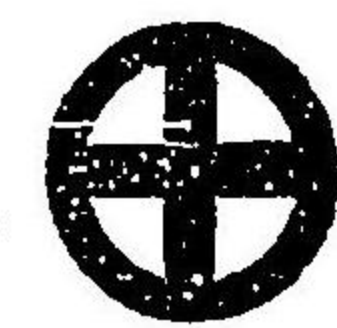
御料理

町袋市崎長

亭樂共

(番二四一)話電

六四



長崎市大村町

福島屋旅館

長距離電話(一六〇番)

長崎市江戸町

福島屋回漕部

長距離電話(五二二番)

六五



御旅館 上野屋旅館

長崎市萬歲町十二番地

特長電話(一一七番)

正議と讜論の不滅地  
實益と趣味の無盡藏

新開九州日之出新聞

電話一—番

定價(一枚金三錢△一ヶ月分前金二十八錢△)廣告料(五號活字十九字語一行三十錢二日以上  
六ヶ月分前金一圓六十錢△一ヶ月分前金一圓六十錢△一ヶ月分前金一圓六十錢△一ヶ月分前金一圓六十錢△  
金三圓十錢△地方郵費一ヶ月十三錢) (一週間迄二割引一週間以上二割引特別  
一行金六十錢色刷一行九十錢)

發行所 長崎市銀屋町 九州日之出新聞



定期預金 六ヶ月 年五分  
 當座預金 日歩七厘  
 小當座預金 日歩壹錢

長崎市本下町二十五番地



株式會社

日本商業銀行 支店

電話 (長三〇五番) (長三五七番)

本店所在地 神戸市兵庫鍛冶屋町一番邸  
 支店所在地 門司柳井岩國小樽  
 銀行一般ノ業務精々御便利ニ取扱可申上候

清國上海臺灣  
 浦汐厦門 貿易商

一輸入ノ部

米穀、雜穀、各種類、砂糖

肥料、棉花、豆類

其他ノ雜貨一切

一輸出ノ部

米穀、海產物、陸產物一切

長崎市新地二十五番(泰益號)

陳世望

特電話(五二二番)

清國上海芝罘  
 天津牛莊  
 厦門汕頭  
 福州廈門其  
 他各地

貿易商

輸入ノ部

肥料、綿花、米穀、雜穀

豆類、其他雜貨一切

輸出ノ部

陸海產物、穀類、鐵詰

其他雜貨一切

長崎市新地三十二番

振泰號 林投記

特電話(三九〇番)



明治八年創立  
 鎮西日報  
 九州最古ノ新聞  
 長崎市本博町  
 特電電話三三三番二

七〇

三山運輸  
 合名會社 汽船航路案内

長崎鹿兒島線	郵便平戸大島伊萬里線	每日出帆
定期長崎佐世保平戸線	同 茂木口ノ津島原線	每日出帆
長崎天草島原線	同 茂木小濱線	每日出帆
航路長崎串木野飯島線	同 茂木天草三角際崎線	每日出帆
長崎野母線	同 島原長須線	每日二回出帆
命令早岐平戸五島線	伊萬里灣內各港	每日二回出帆
航路早岐平戸五島線	郵便鹿兒島灣內各港	每日二回出帆
早岐彌ノ浦崎戸線		每日二回出帆

長崎縣時津港

三山運輸合名會社

長崎市玉江町三丁目

三山運輸合資會社 長崎出張所

出張所所在地 佐世保 平戸 茂木 島原 鹿兒島

七一



株式會社 支那日本貿易商會

長崎大浦四番  
電話 四二七

七二

貿易商 源昌號

長崎市新地八番地

蘇道生  
長電話(一一〇番)

酒類 今 鎮屋商店

長崎市大村町

長電話(五四五番)

七三



清國貿易商

輸入ノ部 肥料棉花大豆雜穀  
輸出ノ部 木炭東洋紙磚茶石炭

長崎市新地二十番地

貿易商 三餘號 沈明久

長電話(六四四番)

清國貿易商

輸入ノ部 肥料棉花大豆雜穀  
輸出ノ部 木炭東洋紙磚茶石炭

長崎市梅香崎町五番地

貿易商 昇昌裕

長電話(一〇五番)

吳服商

本店



長崎市桶屋町二十二番戸

松尾 吳服店

長電話(一〇六番)

和洋總系卸商



同 材木町十一番戸

松尾 糸店

仕入店



大阪市心齋橋北詰

松尾 大阪支店

(長電話東三三六四番)



事務所 長崎市萬屋町四十八番地

諸新聞廣告極安  
價二取扱申候

### 長崎廣告社

社主 馬場清二郎  
長崎市桶屋町四十一番地

長崎市今鍛冶屋町角

各種時計  
貴金屬商  
測量器械

### 金子時計店

明龜製造業

製網業

燃絲製造業

長崎縣小值賀港

合資會社小值賀龜集所

業務執行社員 梶野英盛

粗製沃度(明治三十一年設立)

鹽化加里製造業

粗鹽

長崎縣北松浦郡笛吹村

小值賀沃度合資會社

業務担当社員 木村又太郎

同 尾崎忠兵衛

### 清國上海貿易商

一輸入ノ部 肥料米穀雜穀豆類棉花其他雜貨一切

一輸出ノ部 海產物陸產物一切

長崎市新地十四番地

台盛號 施夢岨

外國貿易品

肥料製造販賣

汽船元扱業

長崎小值賀港

田口登美治

電信略符號(タトミ)



明鮑製造業  
海藻類販賣  
酒類煙草販賣

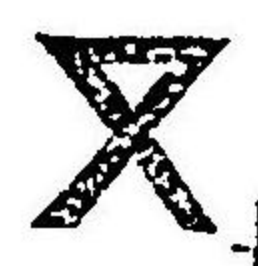
肥前國小值賀港  
龜屋事



長田勢兵衛

電信略號(オサタ)

生魚 鹽魚  
海草類 製造販賣  
肥鰯 鰯節



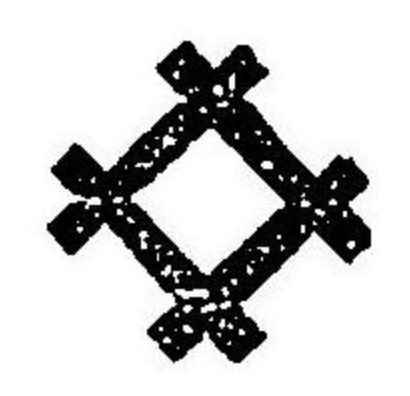
長崎縣肥前小值賀

藤松福三郎

電信略號(フフ)

七九

對馬國



米穀石油荒物商并旅館  
日本生命保險會社代理店

汽船運送元扱  
并魚類賣買商

外國航海汽船元扱所

嚴原國分町

岩佐商店

同 大手橋町東支店

岩佐回漕店

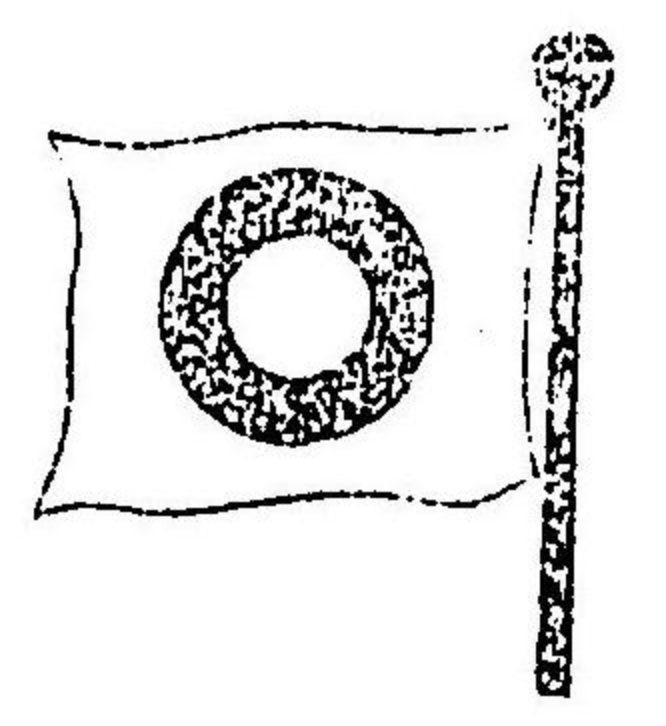
同 國分町西海岸稅關隣

支岩佐回漕部

汽船運送業

對馬國嚴原

藤野商行



天陽丸  
對馬丸  
天生丸  
高知丸

長崎平手壹岐對馬博多線(定期)

對馬沿岸線(定期)

大阪境線(定期)

大阪長崎若津線(不定期)

大阪韓國線(不定期)

七九



吳服太物類  
 舶來毛織物類  
 和洋敷物類

長崎市東濱町東角  
 岡部吳服店

特別長電話三百十四番



營 業 品 目

時計類 (金 白金 金著 銀 腕銀 赤銅 鐵 白銅 側) 時計鎖 (金 白金 銀 赤銅 金 著 鐵 白銅) 磁石 鉛筆 寫真入 指環 婦人用帶 締 根掛 簪 襟止 襟針 頸飾 腕輪 胸釦 手釦 卷裏入 名刺入 バイブ 徽章等ノ 貴金屬 寶玉 入携帶用服裝 用美術品 額面 花瓶 香爐 香合 名刺盆 襖引手 釘隠シ 及 蒔繪類 其他 室内 用裝飾美術品 金銀木 盃 湯沸 急須 茶托 及其他 煙管 金銀食器類 金銀線眼 鏡 雙眼鏡 望遠鏡 顯微鏡 晴雨計 寒暖計類 各種 金銀 白金 水晶 玉 瑪瑙 牙 角 竹 木 石 等ノ 印材 (篆刻 應費 囑) 平圓盤 寫聲機類 並ニ 銃砲 火藥類

長崎市今鍛冶屋町四十番地

天賞堂出張所

本店 東京 (電話特二二九)

吳服太物類  
舶來毛織物類  
和洋敷物類

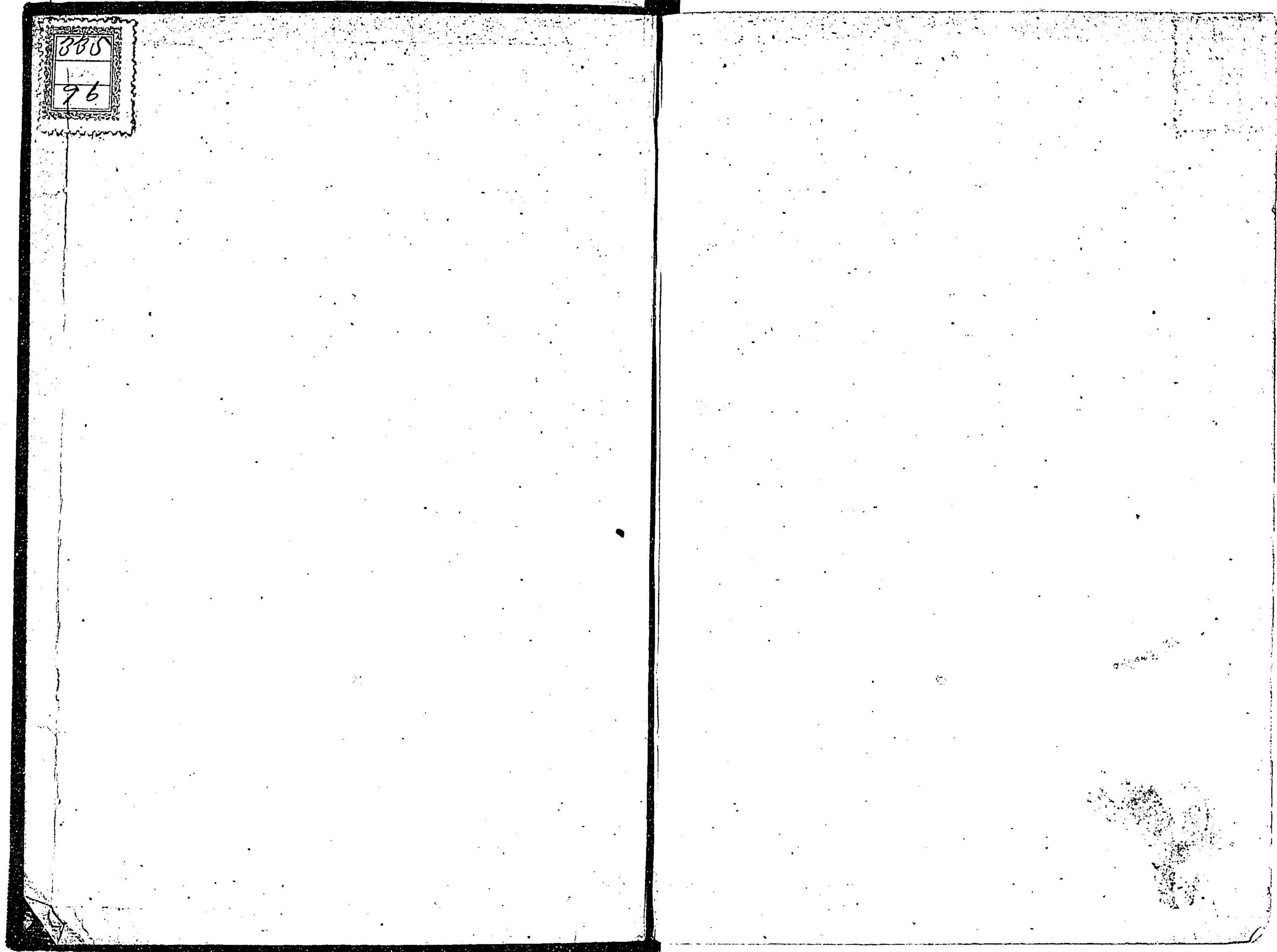
引

會合社名

岡部吳服店

長崎市東濱町東角  
特別長電話三百十四番





880

96



◎ 營業要目

內外出版物

出版販賣  
出版受負

石版 活版 コロタイプ 寫眞版 銅版  
各種印刷及製本

東京 警眼社

繪葉書 徽章

メタル

其他公ノ集會會合ニ關スル調度品一切ノ受負  
東京 とりゑ商會

中等教科書 出版販賣

東京 三友書院

振替口座  
番三三五第

振替口座  
番二二第

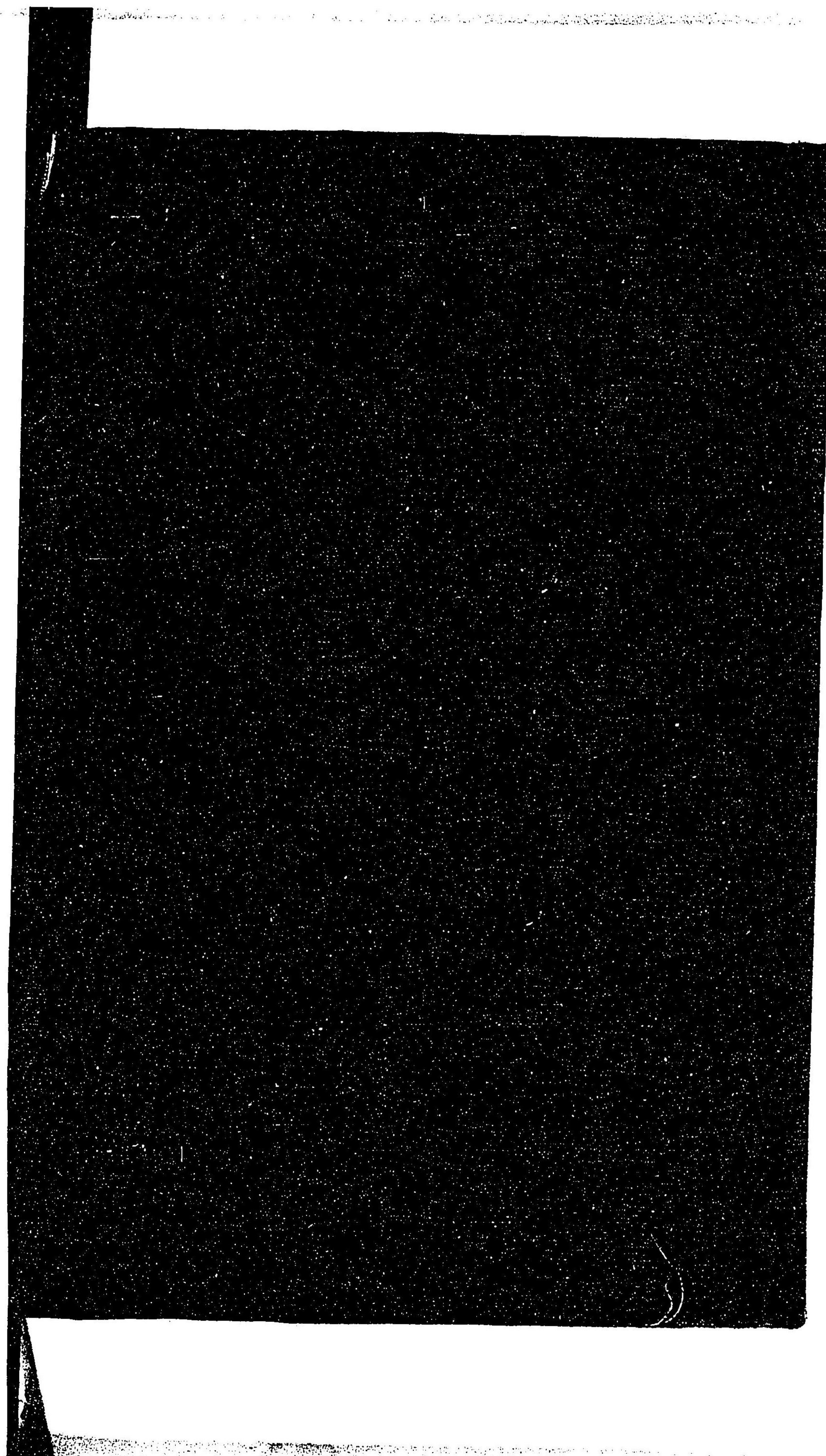
電話本局 } 三〇四三番

東京市日本橋區寄町壹番地  
主幹 田山宗堯



305  
96







026252-000-0

335-96

長崎県紀要

第二回関西九州府県聯合水産共進会長野県協賛会

M40

ADC-3988

